

## 第2章 高齢者の現状と将来推計

---

第9期計画における高齢者施策、介護保険事業及び地域支援事業を展開するに当たっては、対象となる人口や世帯の構造、要支援・要介護認定者数やサービス利用者数等のこれまでの推移を捉えた上で、将来推計をする必要があります。また、高齢者の生きがいや思い、楽しみや不安なこと等、日常生活における様々な現状を把握する必要もあります。

ここでは、高齢者等の現状分析と将来推計を行うとともに、令和5年2月に実施した高齢者へのアンケート（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査）及び令和4年10月～令和5年5月に実施した在宅介護実態調査の結果について説明します。

### 1 これまでの推移と将来推計

#### （1）人口構造

三浦市は、平成6年11月1日の54,350人をピークに人口が徐々に減少していますが、高齢者人口は増加を続け、高齢化率が上昇しています。令和5年1月1日現在における高齢者人口は16,936人、高齢化率は41.6%で、神奈川県25.8%や全国の29.0%を大きく上回っており、約2.5人に1人が高齢者という状況です。

第9期計画における本市の将来人口については、公表されている国勢調査で最新のものである「令和2年国勢調査」や国立社会保障・人口問題研究所が作成した将来人口の推計を参考としながら、令和5年10月1日現在の住民基本台帳をもとに推計しました。

高齢者人口は、緩やかに減少していく見込みですが、高齢化率については、増加していく見込みです。第9期計画期間中で団塊の世代が後期高齢者となる令和7年には、高齢者人口は16,049人で高齢化率は42.0%、計画の最終年度である令和8年には、15,899人で高齢化率は42.4%になると見込んでいます。

【人口の推移の比較】

三 浦 市	平成22年	平成27年	令和2年	令和5年
人口(人)	48,352	45,289	42,069	40,841
高齢者人口(人)	14,238	16,081	17,229	16,936
高齢化率(%)	29.4	35.5	41.0	41.6
神 奈 川 県	平成22年	平成27年	令和2年	令和5年
人口(人)	9,048,331	9,126,214	9,237,337	9,227,901
高齢者人口(人)	1,819,503	2,158,157	2,360,820	2,326,294
高齢化率(%)	20.1	23.6	25.6	25.8
全 国	平成22年	平成27年	令和2年	令和5年
人口(千人)	128,057	127,095	126,146	124,752
高齢者人口(千人)	29,246	33,465	36,027	36,173
高齢化率(%)	22.8	26.3	28.6	29.0

※平成22～令和2年については国勢調査で各年10月1日現在。

令和5年については、1月1日現在の神奈川県年齢別人口統計調査、

全国は総務省統計局の人口推計(令和5年6月報)の1月1日現在の数値を掲載。

【人口の推移】

区 分	令和3年	令和4年	令和5年
人口(人)	41,928	41,406	40,765
40～64歳人口(人)	13,627	13,563	13,372
高齢者人口(人)	16,735	16,656	16,579
前期高齢者(65～74歳)	7,959	7,506	7,053
後期高齢者(75歳以上)	8,776	9,150	9,526
高齢化率(%)	39.9	40.2	40.7

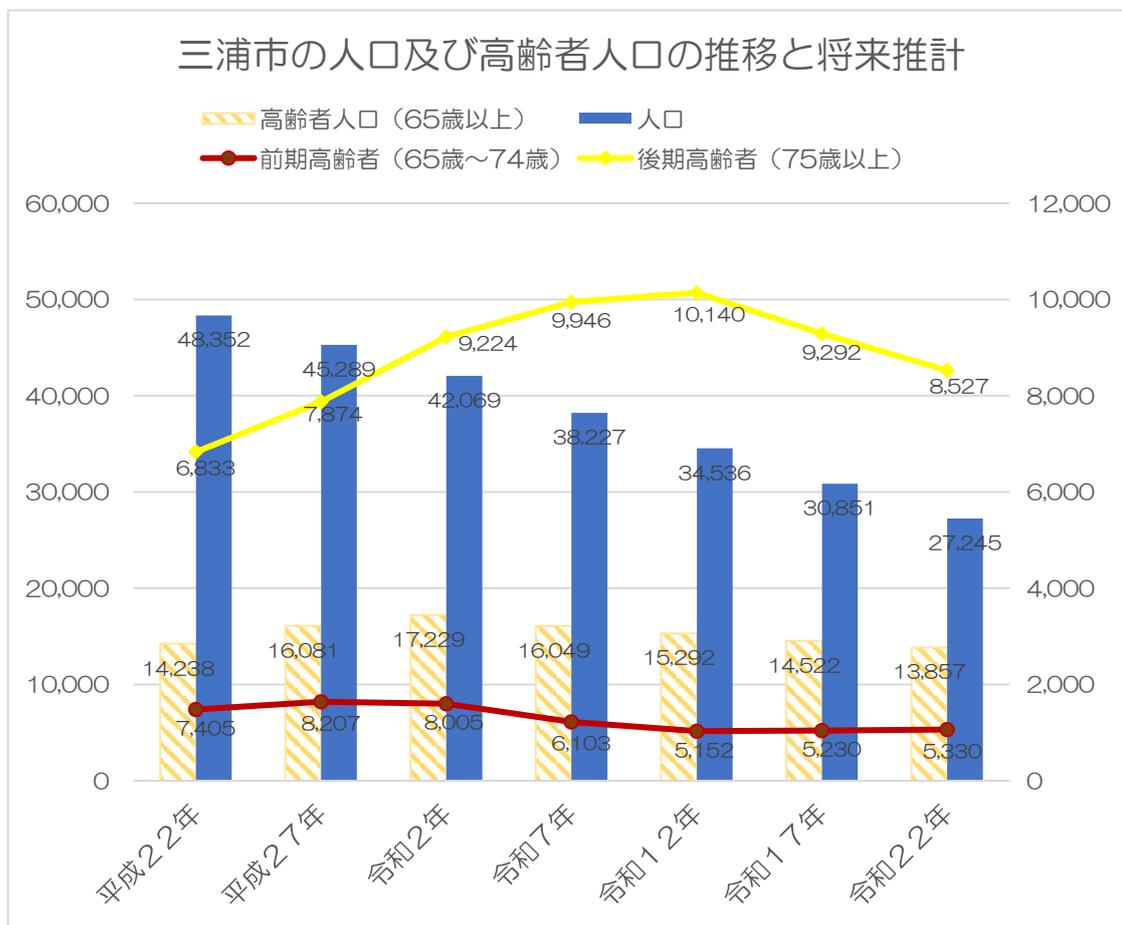
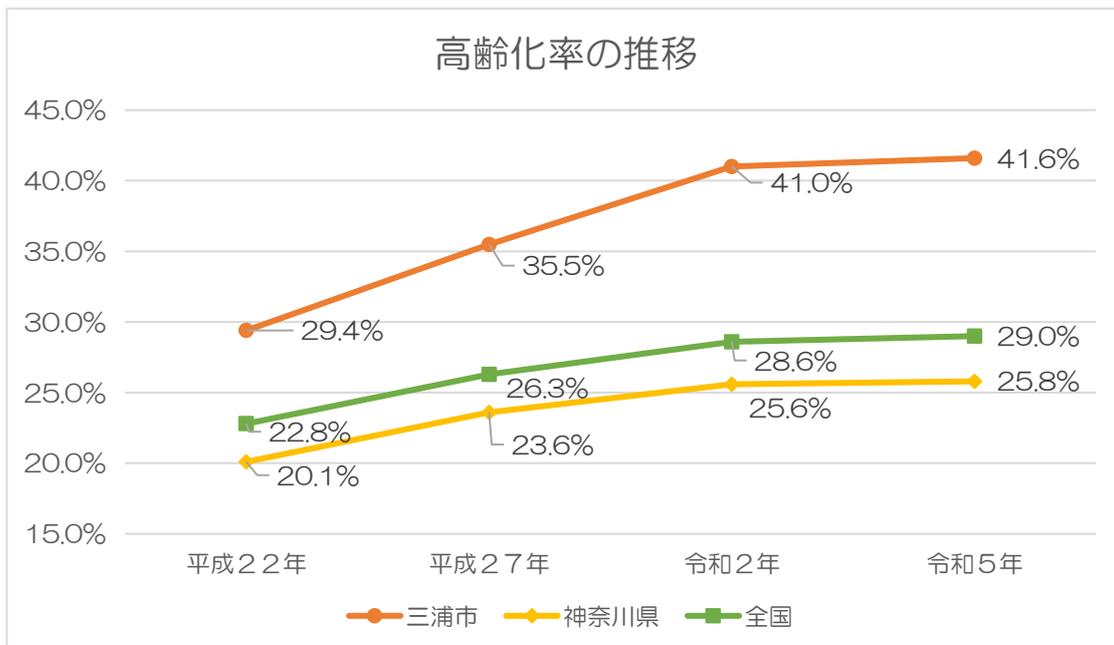
※住民基本台帳(各年10月1日現在)

【人口の推計】

区 分	令和6年	令和7年	令和8年
人口(人)	38,995	38,227	37,489
40～64歳人口(人)	12,553	12,335	12,054
高齢者人口(人)	16,184	16,049	15,899
前期高齢者(65～74歳)	6,462	6,103	5,913
後期高齢者(75歳以上)	9,722	9,946	9,986
高齢化率(%)	41.5	42.0	42.4

区 分	令和12年	令和17年	令和22年
人口(人)	34,536	30,851	27,245
40～64歳人口(人)	10,928	9,300	7,481
高齢者人口(人)	15,292	14,522	13,857
前期高齢者(65～74歳)	5,152	5,230	5,330
後期高齢者(75歳以上)	10,140	9,292	8,527
高齢化率(%)	44.3	47.1	50.9

※各年10月1日現在推計値



## (2) 世帯構造

本市では半数以上の世帯が高齢者のいる世帯となっています。高齢者のいる世帯の割合についても神奈川県や全国の数値を大きく上回っており、今後も上昇が見込まれているため、高齢化の急速な進展や単身世帯の増加による高齢者の社会的孤立が懸念されます。

### 【世帯の推移の比較】

三浦市	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
世帯数(世帯)	17,523	17,884	17,567	17,210
1世帯あたり人員(人)	2.8	2.7	2.6	2.4
高齢者のいる世帯(世帯)	7,860	9,018	10,104	10,414
単身世帯(世帯)	1,514	2,034	2,560	2,937
(%)	19.3	22.6	25.3	28.2
夫婦世帯(世帯)	1,983	2,433	2,793	3,157
(%)	25.2	27.0	27.6	30.3
同居世帯(世帯)	4,363	4,551	4,751	4,320
(%)	55.5	50.5	47.0	41.5
高齢者のいる世帯(%)	44.9	50.4	57.5	60.5

神奈川県	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
世帯数(世帯)	3,591,866	3,844,525	3,979,278	4,210,122
1世帯あたり人員(人)	2.4	2.4	2.3	2.2
高齢者のいる世帯(世帯)	1,007,366	1,209,217	1,410,766	1,497,424
単身世帯(世帯)	226,119	308,463	398,979	459,724
(%)	22.4	25.5	28.3	30.7
夫婦世帯(世帯)	295,267	363,535	427,748	483,754
(%)	29.3	30.1	30.3	32.3
同居世帯(世帯)	485,980	537,219	584,039	553,946
(%)	48.2	44.4	41.4	37.0
高齢者のいる世帯(%)	28.0	31.5	35.5	35.6

全国	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
世帯数（世帯）	49,566,305	51,950,504	53,448,685	55,704,949
1世帯あたり人員（人）	2.6	2.5	2.4	2.3
高齢者のいる世帯（世帯）	17,204,473	19,337,687	21,713,308	22,655,031
単独世帯（世帯）	3,864,778	4,790,768	5,927,686	6,716,806
（%）	22.5	24.8	27.3	29.6
夫婦世帯（世帯）	4,487,042	5,250,952	6,079,126	6,848,041
（%）	26.1	27.2	28.0	30.2
同居世帯（世帯）	8,852,653	9,295,967	9,706,496	9,090,184
（%）	51.5	48.1	44.7	40.1
高齢者のいる世帯（%）	34.7	37.2	40.6	40.7

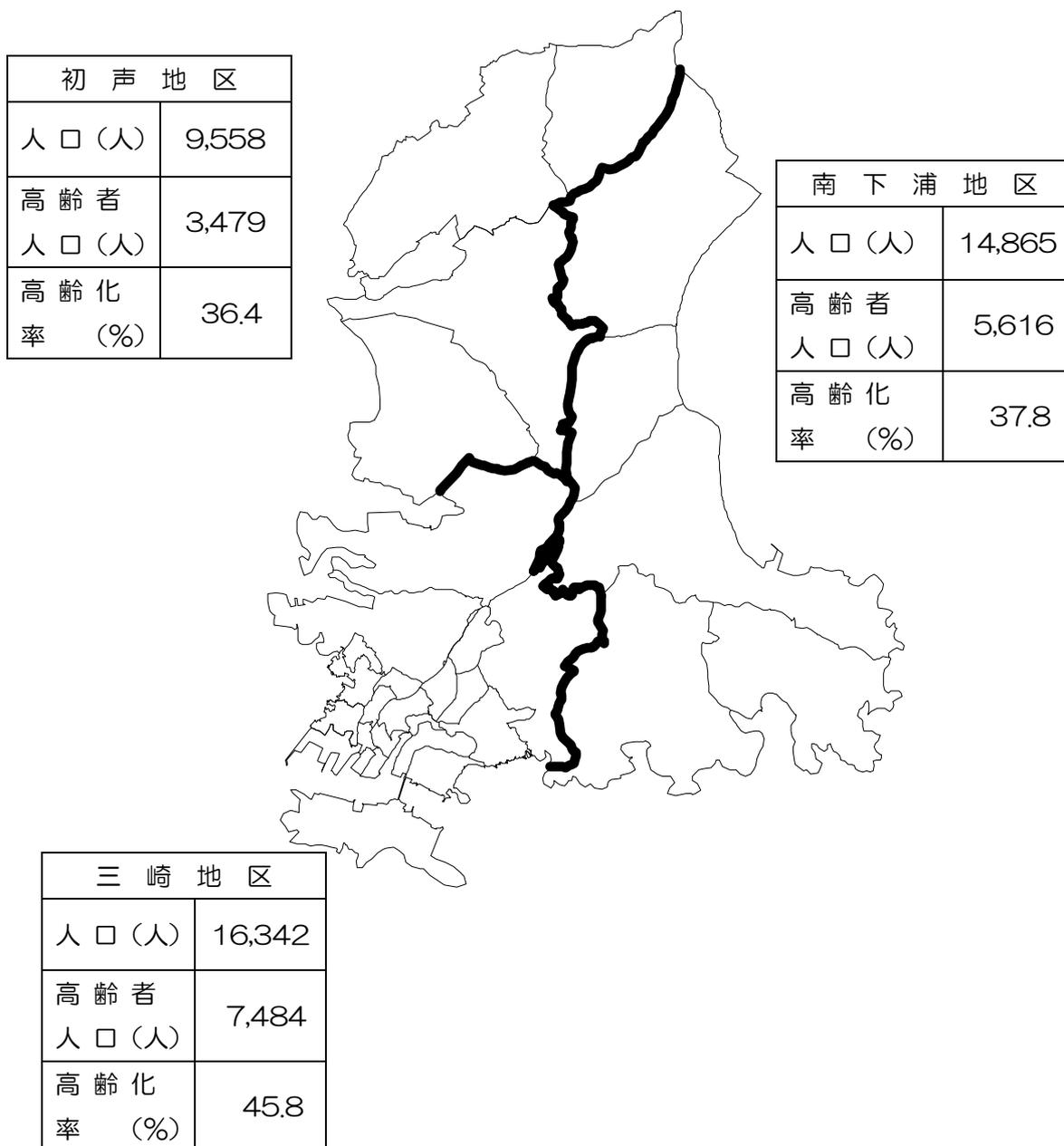
※各年国勢調査の結果です。

※割合に関しては四捨五入をしているため、合計が100%にならない場合があります。

### (3) 日常生活圏域

第3期計画から、住み慣れた地域で日常生活を送ることができるようサービス基盤を整備する上での単位として、三崎地区、南下浦地区、初声地区の3つの日常生活圏域を設定しました。第9期計画においても引き続き3つの日常生活圏域をそのまま維持することとします。

各圏域にはコミュニティを形成する中心的公共施設商店や病院などの生活を形成する上での環境が備わっています。



※住民基本台帳（令和5年10月1日現在）

## 2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の概要

### (1) 調査の目的

第9期計画を策定するにあたり、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施することにより、地域の高齢者の現状から地域課題を把握（地区診断）することや、必要となるサービスを把握することを目的とし、実施しました。

### (2) 調査対象者・調査方法等

ア 調査対象者（令和5年2月8日現在、無作為抽出）

（ア）市内在住で65歳以上の一般高齢者の方（抽出数2,600人）

（イ）市の被保険者で要支援1・2の認定を受けている方（抽出数400人）

イ 調査期間

令和5年2月17日（金）～令和5年3月8日（水）

ウ 調査内容

国が提示する「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」（必須項目35問＋オプション項目29問）に市独自設問（5問）を加えたもの

エ 調査方法

（ア）調査票による記入方式

（イ）郵送による配布・回収

### (3) 回収結果

配布数	回収数	回収率
3,000人	1,858人	61.9%

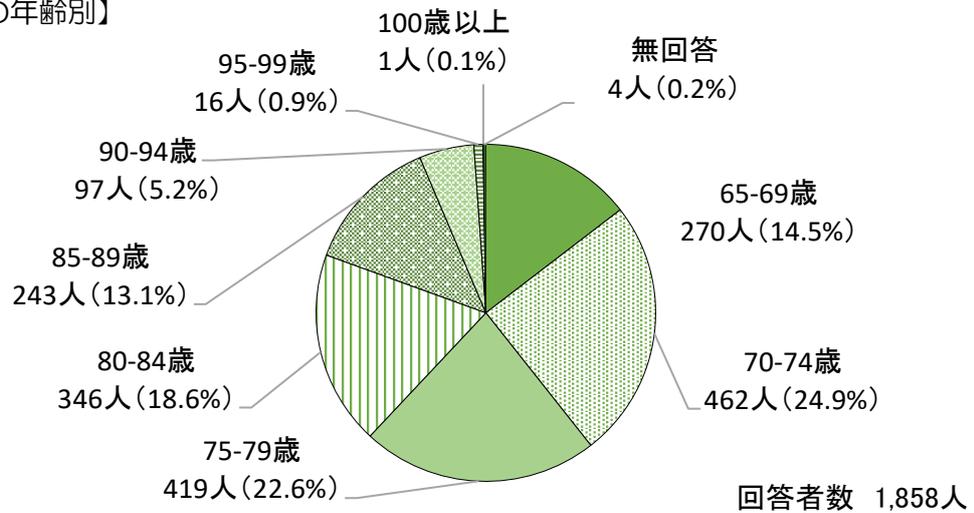
### (4) 調査結果の表記について

回答結果の割合（％）については、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合があります。

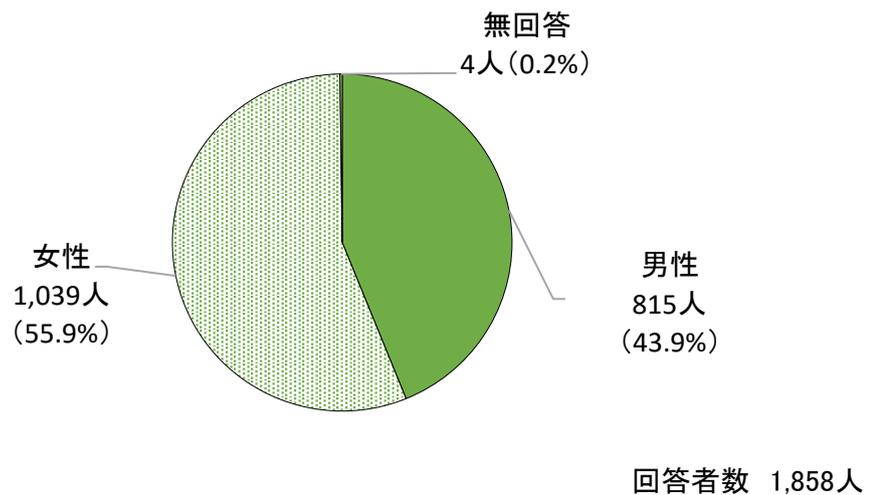
(5) 調査結果について (抜粋)

ア 回答者の基本情報

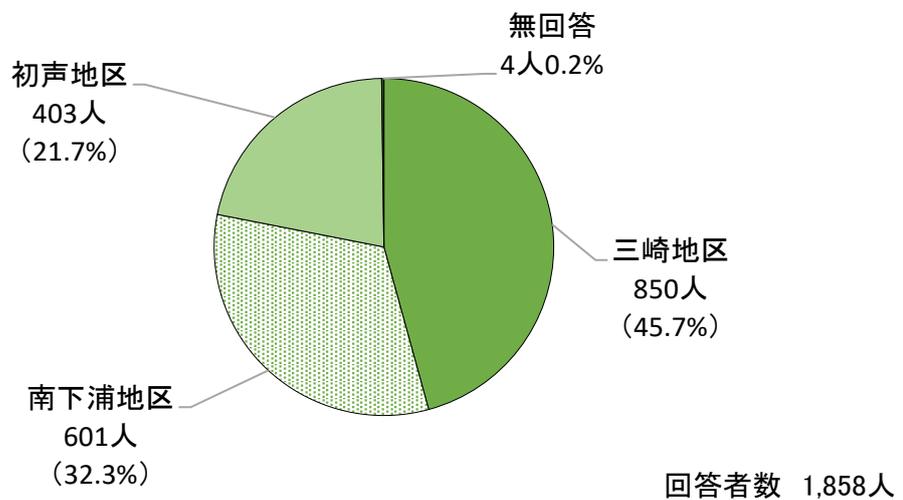
【回答者の年齢別】



【回答者の性別】



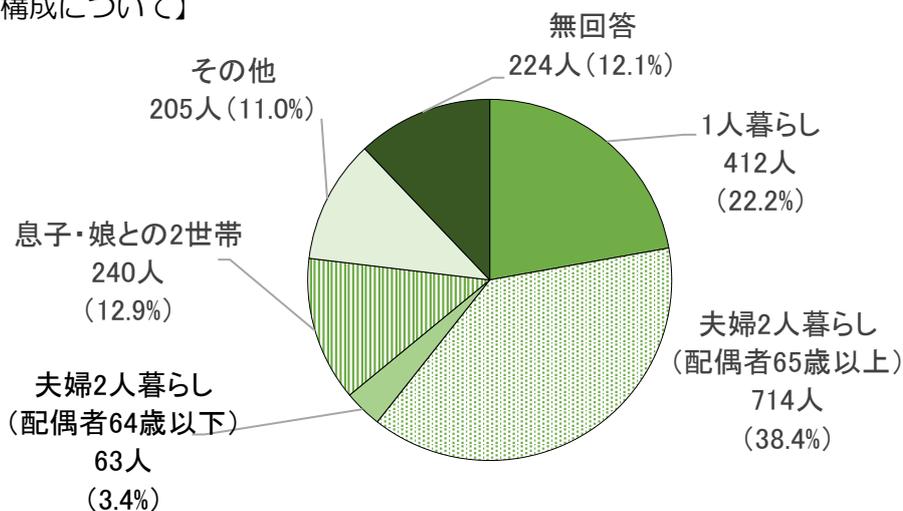
【回答者の圏域別】



## イ 家族や生活状況について

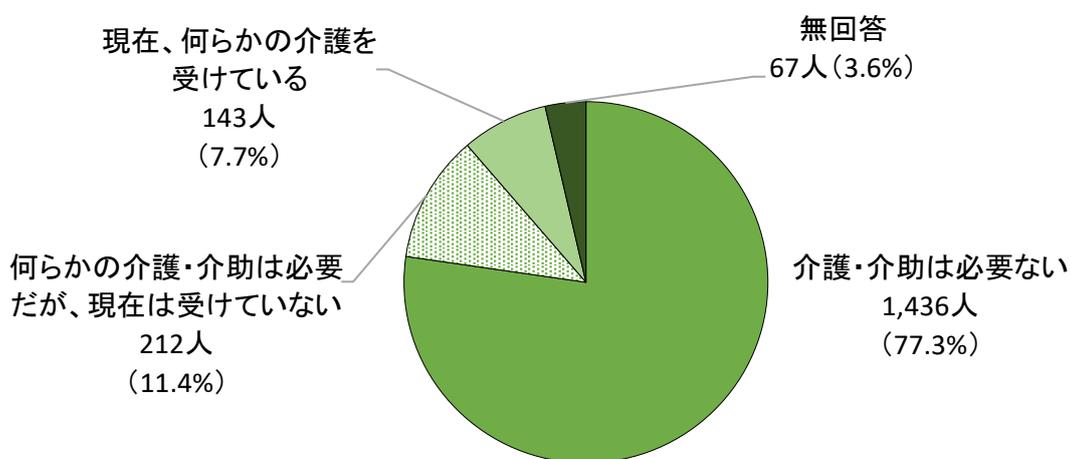
家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が38.4%で最も高く、次いで「1人暮らし」が22.2%、「息子・娘との2世帯」が12.9%と続いています。

### 【家族構成について】



回答者数 1,858人

### 【介護・介助の必要性】



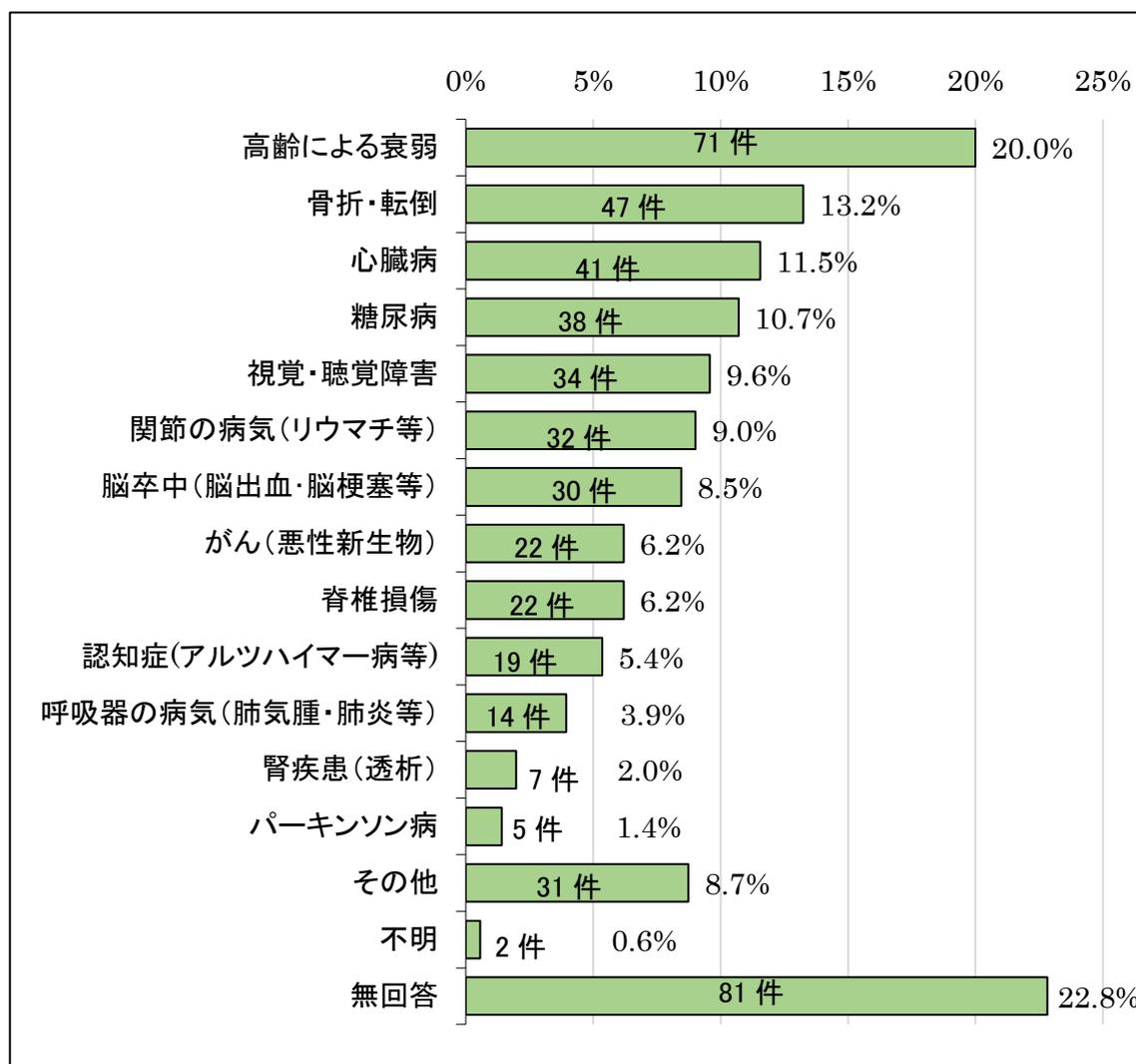
回答者数 1,858人

【介護・介助が必要になった主な原因】

(介護・介助が必要な方及び介護を受けている方のみ・複数回答)

総数 496 件

回答者数 355 人



◆骨折・転倒により介護が必要となった方が多いことから、転倒予防や運動器の機能向上等を目的とした介護予防事業の充実を引き続き図ることが必要と考えられます。

◆心臓病・糖尿病など若い頃からの生活習慣が原因となって引き起こされる疾患により介護が必要になる方も多くいます。重症化予防など、若い世代からの一体的な取組が必要と考えられます。

◆認知症により介護になった方が増加傾向です。早期に発見し対応することが介護予防につながるため、認知症に関する知識の普及啓発や早期発見の取り組みが必要と考えられます。

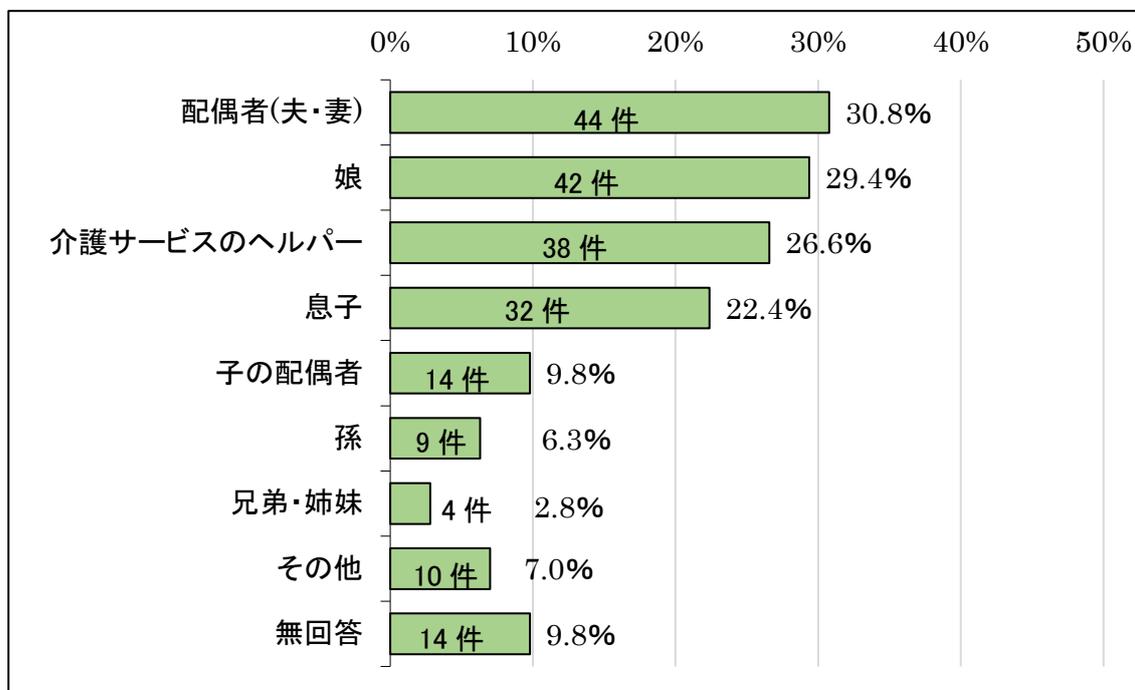
【介護者の詳細】

(現在、何らかの介護を受けている方のみ・複数回答)

最も多かったのは「配偶者(夫・妻)」で30.8%、次に「娘」29.4%、「介護サービスのヘルパー」26.6%となっています。前回調査時最も多かった「介護サービスのヘルパー」は5.5%減少しています。

総数 207 件

回答者数 143 人

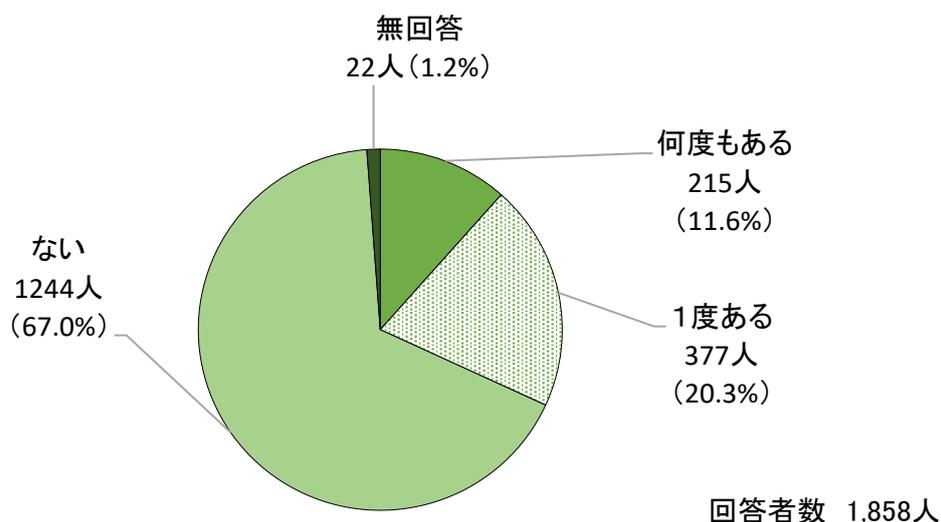


## ウ からだを動かすことについて

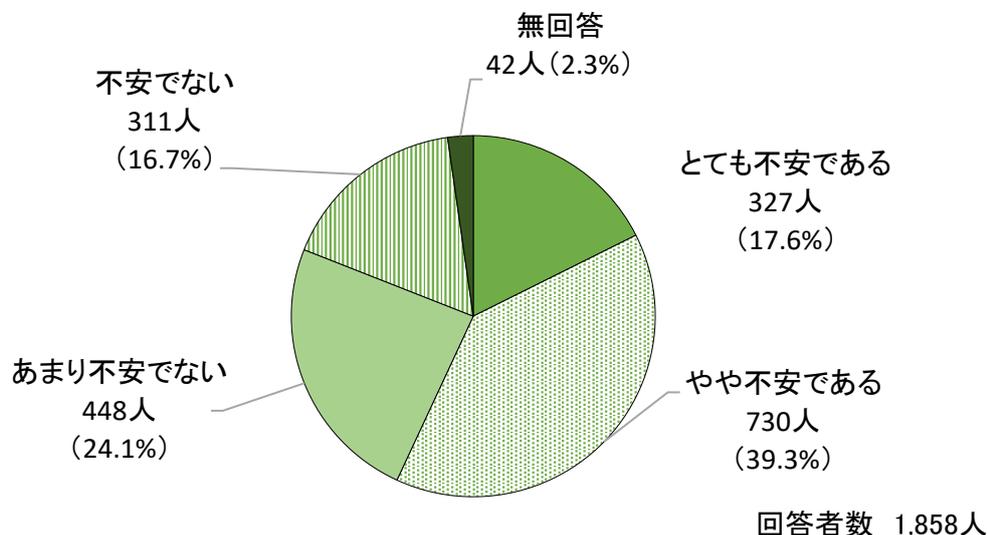
過去1年間に転んだ経験がある割合は全体で31.9%ですが、56.9%の方が「転倒に対する不安が大きい」と回答しています。

週1回以上外出する割合は、全体で90.1%です。しかし、「昨年と比べて外出回数が減っている」割合は35.3%、「外出を控えている」割合は33.4%となっており、理由としては「足腰などの痛み」が44.4%となっています。

### 【過去1年間に転んだ経験がありますか】

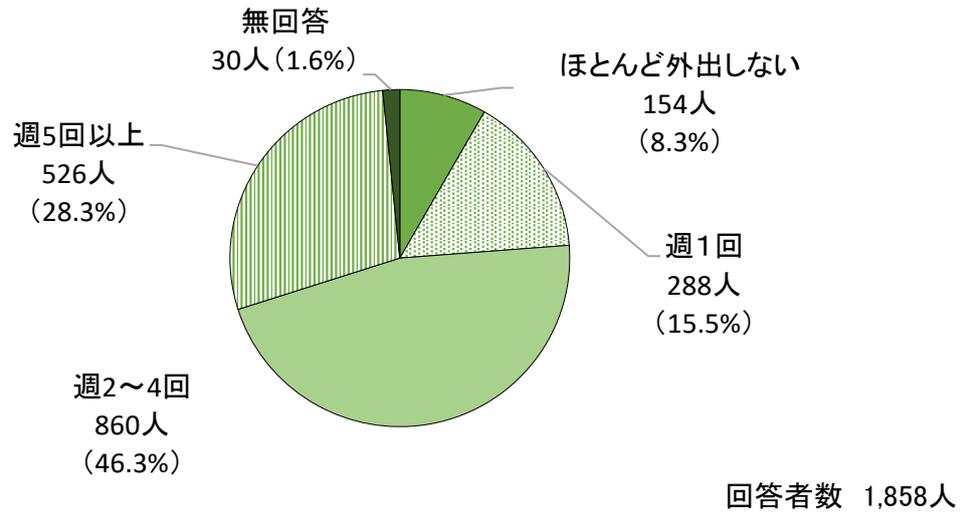


### 【転倒に対する不安は大きいですか】

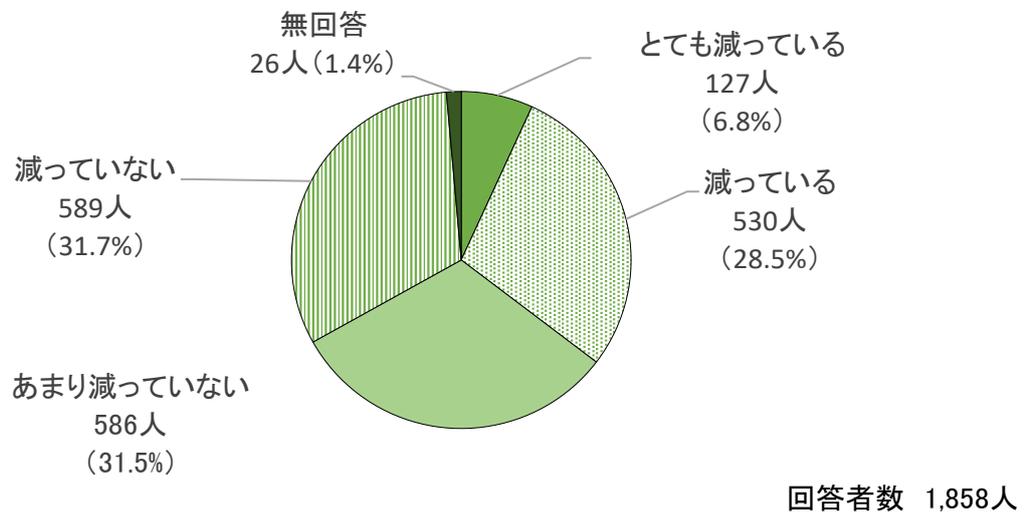


◆約6割の方が転倒に対する不安を抱えています。また、介護が必要となった原因として骨折・転倒は上位となっているため、「転倒予防」や「筋力の低下予防」などの介護予防事業の充実及び推進が、今後も必要と考えられます。

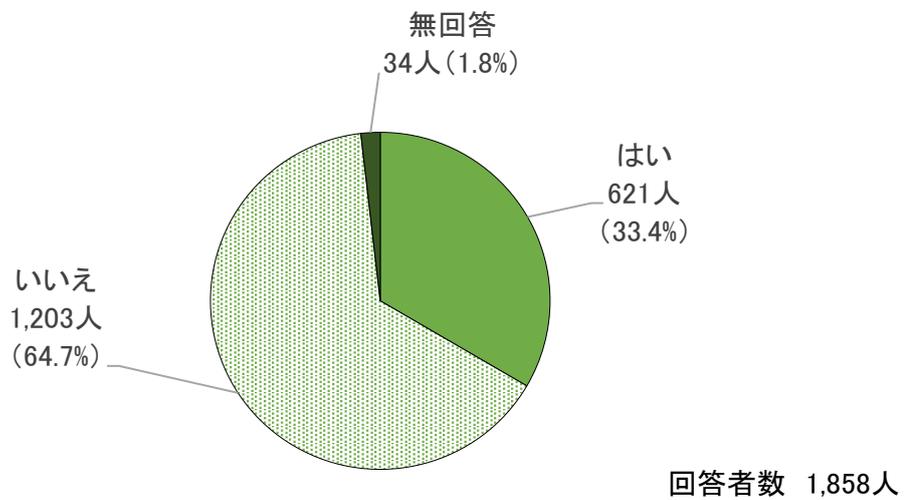
【週に1回以上は外出していますか】



【昨年と比べて外出の回数が減っていますか】



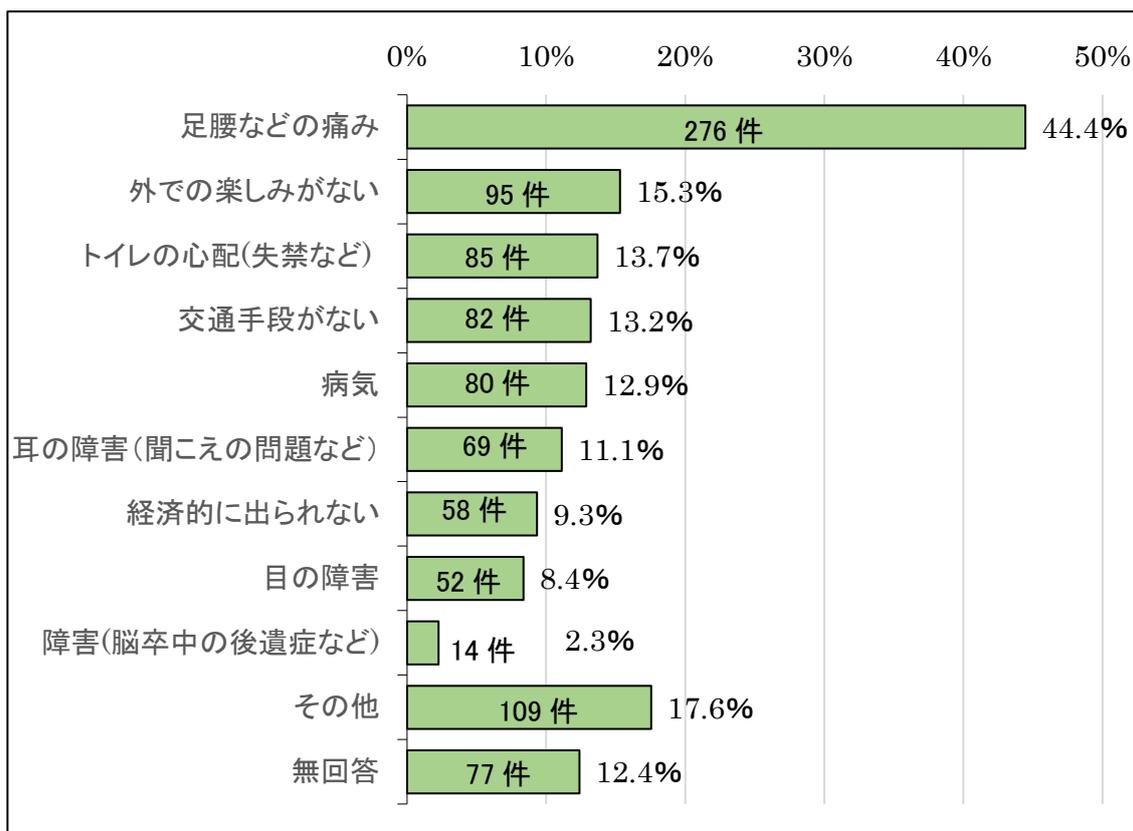
【外出を控えていますか】



【外出を控えている理由】（外出を控えている方のみ。複数回答）

総数 997 件

回答数 621 人



◆外出を控えている方のうち約半数の方が、足腰の痛みを挙げています。外出をすることは、認知機能、社会とのつながりなどを維持し、介護予防につながることから重要であるため、通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を支援することが必要と考えられます。

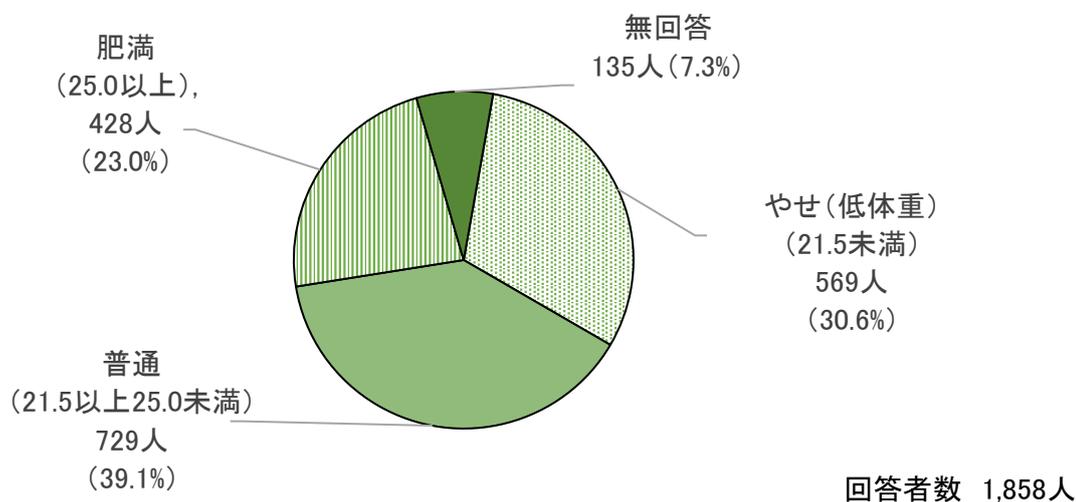
◆外出を控えている理由として「その他」を選択した方のほとんどが「コロナ対策」と回答しており、新型コロナウイルス感染症による外出控えが続いていることが分かりました。感染症対策をとりながら、外出のきっかけづくりへの対策も必要と考えられます。

## エ 食べることについて

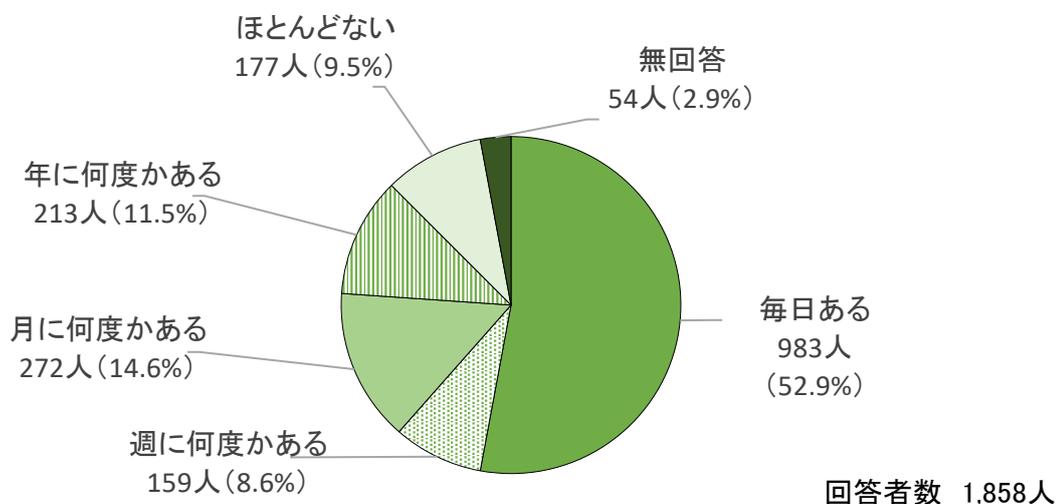
「やせ（低体重）（BMI 21.5未満）」が30.6%、「肥満（BMI 25.0以上）」が23.0%となっており、どなたかと食事をともにする機会が「毎日ある」割合は52.9%となっています。

また、お口の機能低下に該当する割合は、24.1%となっています。

### 【BMI】

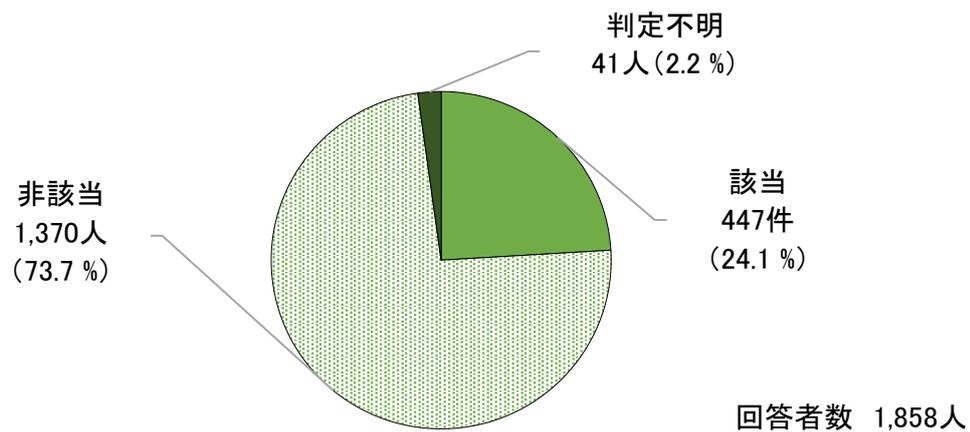


### 【どなたかと食事をともにする機会がありますか】



◆高齢者のフレイル予防の観点から「日本人の食事摂取基準（2020年版）」では、65歳以上の目標とするBMIが18.5～24.9から21.5～24.9に引き上げられ、従来より多くの方がやせに該当しています。低栄養の高齢者に対する支援が重要であると考えられます。

## 【お口の機能低下】



※以下の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能の低下している高齢者として判定しました。

- ・半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
- ・お茶や汁物等でむせることがありますか
- ・口の渇きが気になりますか

◆お口の機能が低下すると、日常生活に支障を来すばかりでなく、全身の機能低下、要介護状態へとつながる可能性があります。正しい口腔ケアやお口の運動の普及啓発が必要と考えられます。

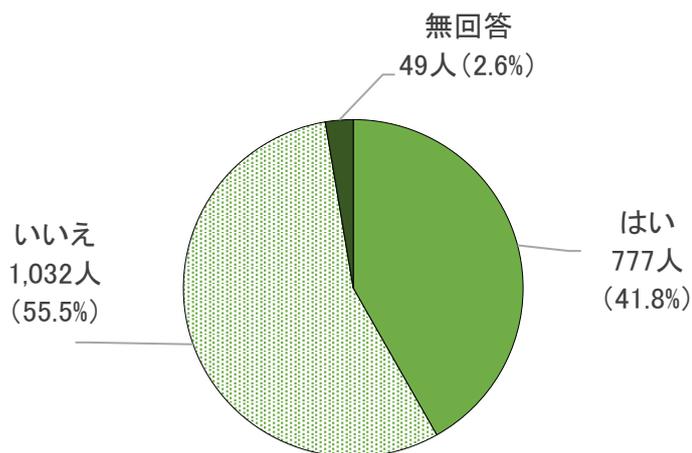
## オ 毎日の生活について

物忘れが多いと感じている割合は、41.8%となっています。

また、「バスや電車を使って1人で外出」については、前回調査時と比べて「できるし、している」が76.7%と4%減少していますが、「できるけどしていない」が12.9%と3%増加しています。

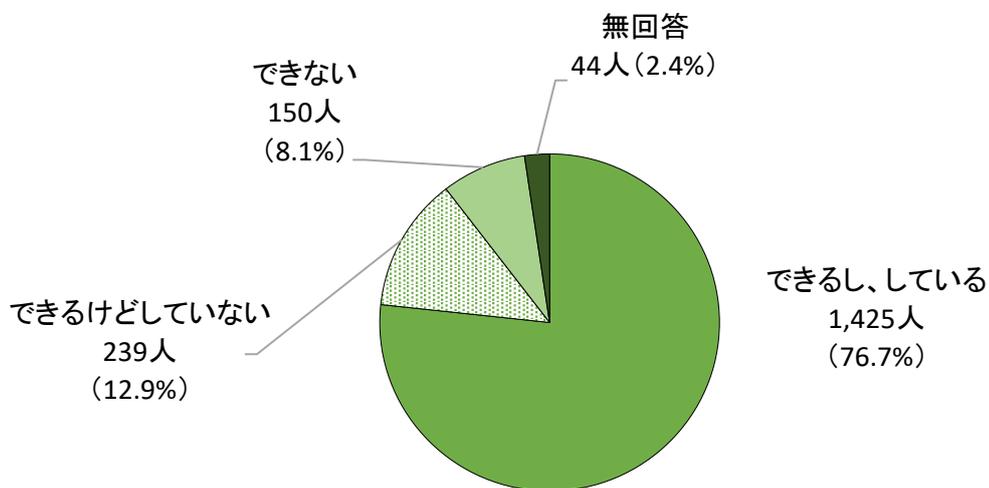
趣味がある割合は、62.0%、生きがいがある割合は、46.0%となっています。生きがいがある方のうち趣味がある方の割合は、82.3%となっています。

### 【物忘れが多いと感じますか】



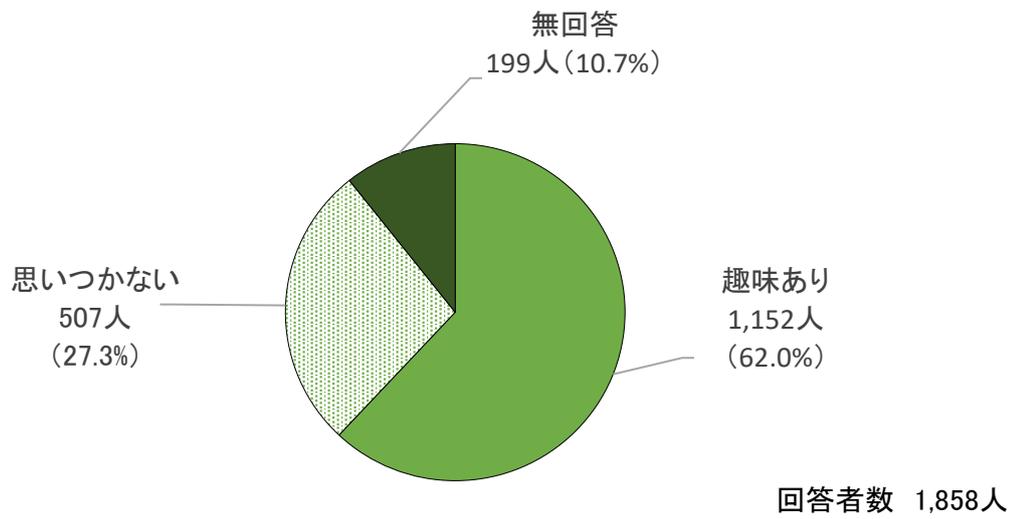
回答者数 1,858人

### 【バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）】

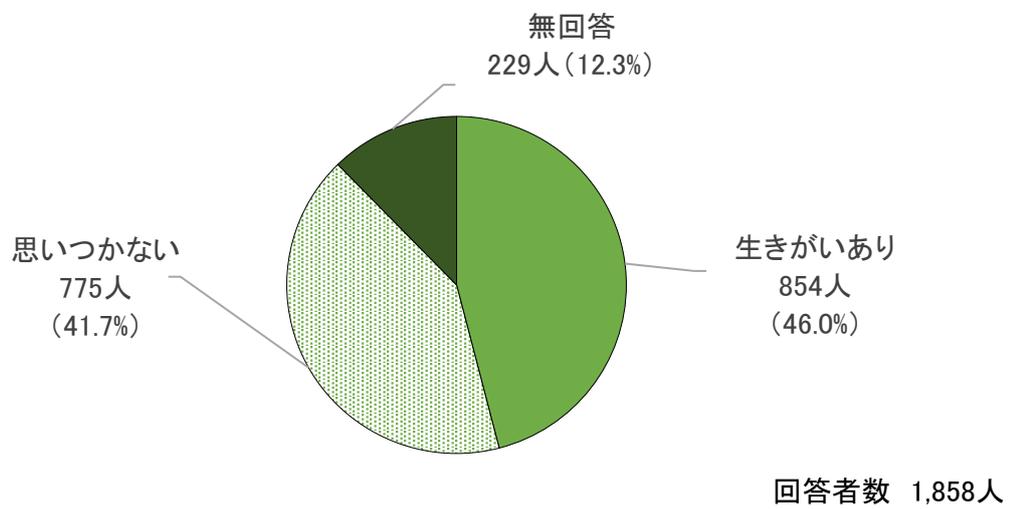


回答者数 1,858人

【趣味はありますか】



【生きがいがありますか】



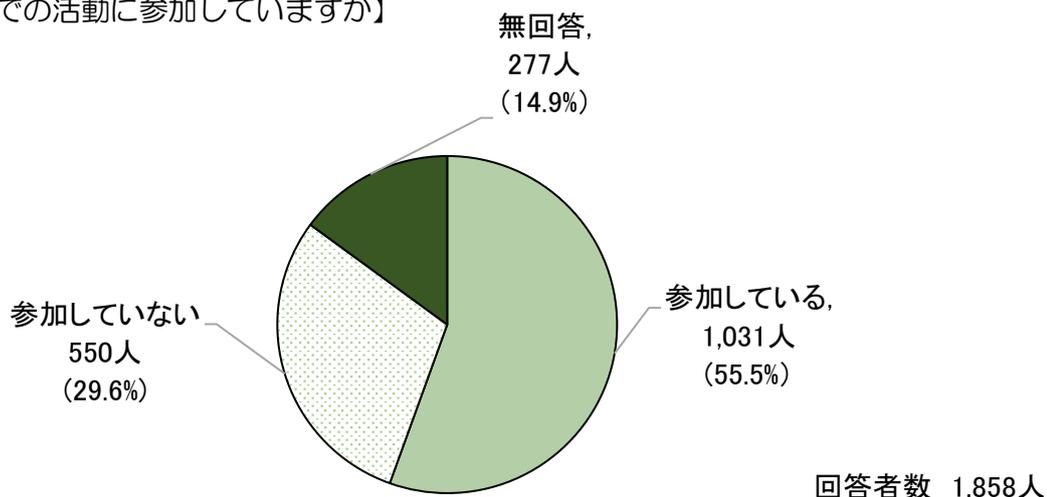
カ 地域での活動について

55. 5%の方が何らかの地域での活動に参加しています。

週1回以上参加している割合でみると、「収入のある仕事」が20.0%で最も高く、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」が9.6%、「趣味関係のグループ」が7.7%と続いており、前回と全く同じ順位でした。

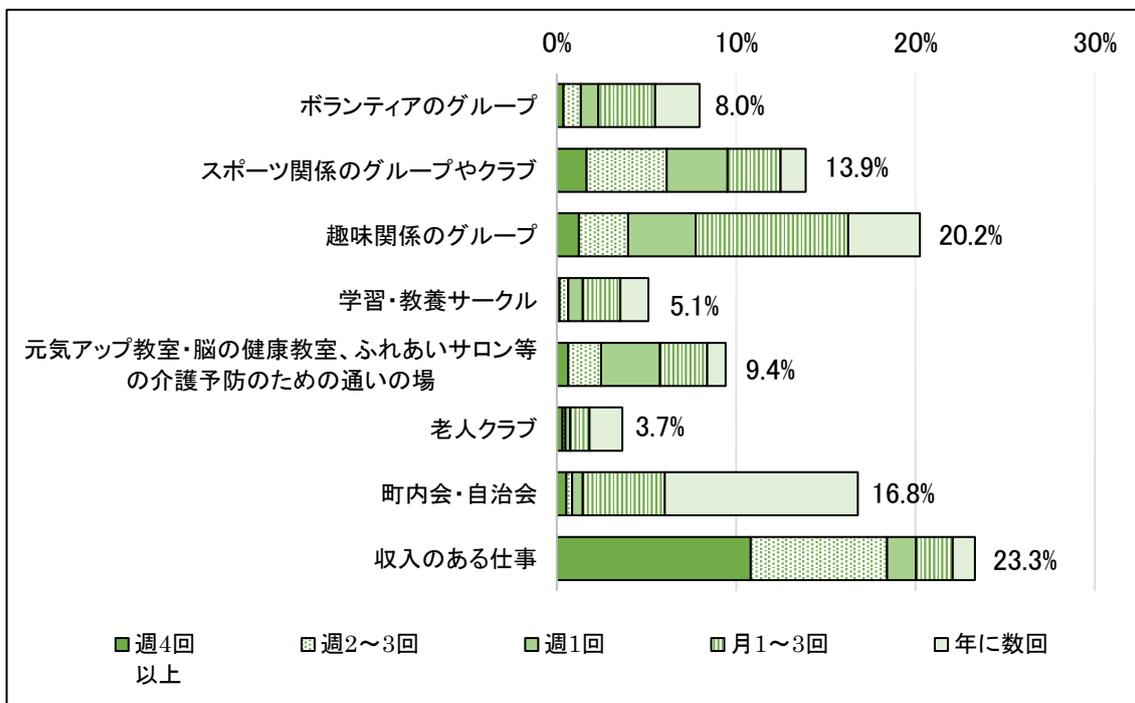
「地域住民の有志によるグループ活動」には、参加者として48.1%の方がぜひ参加したい・参加してもよいと回答しています。また、企画・運営としても30.1%の方がぜひ参加したい・参加してもよいと回答しています。

【地域での活動に参加していますか】

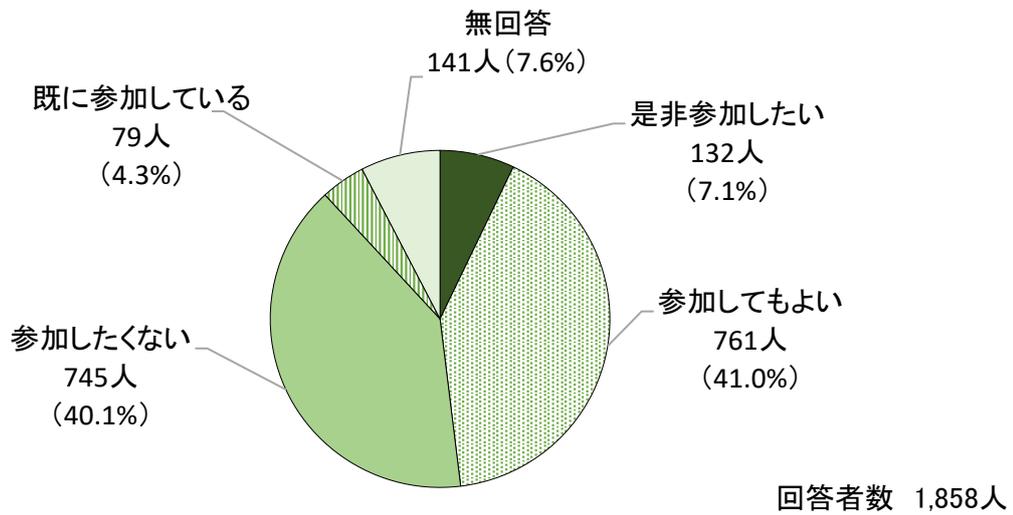


【地域での活動にどのくらいの頻度で参加していますか】

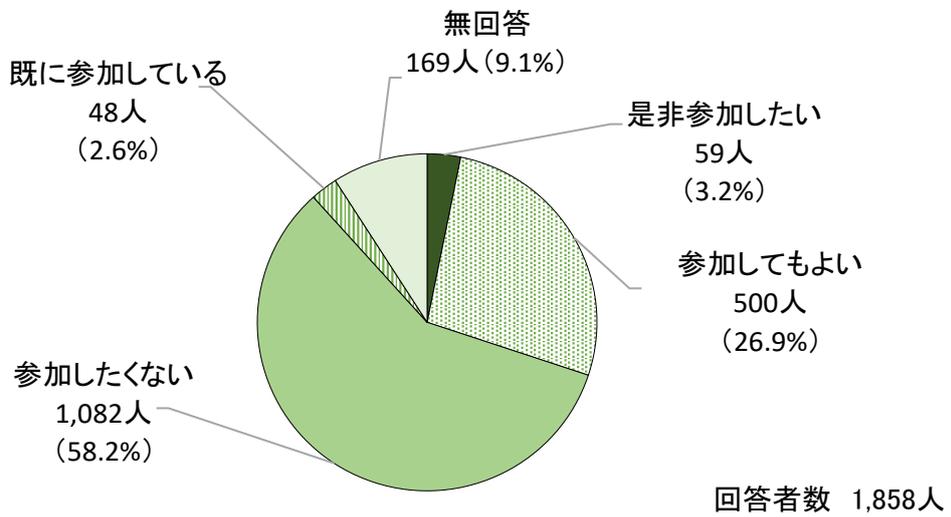
回答者数 1,031人



【地域住民の有志によるグループ活動に参加者として参加してみたいですか】



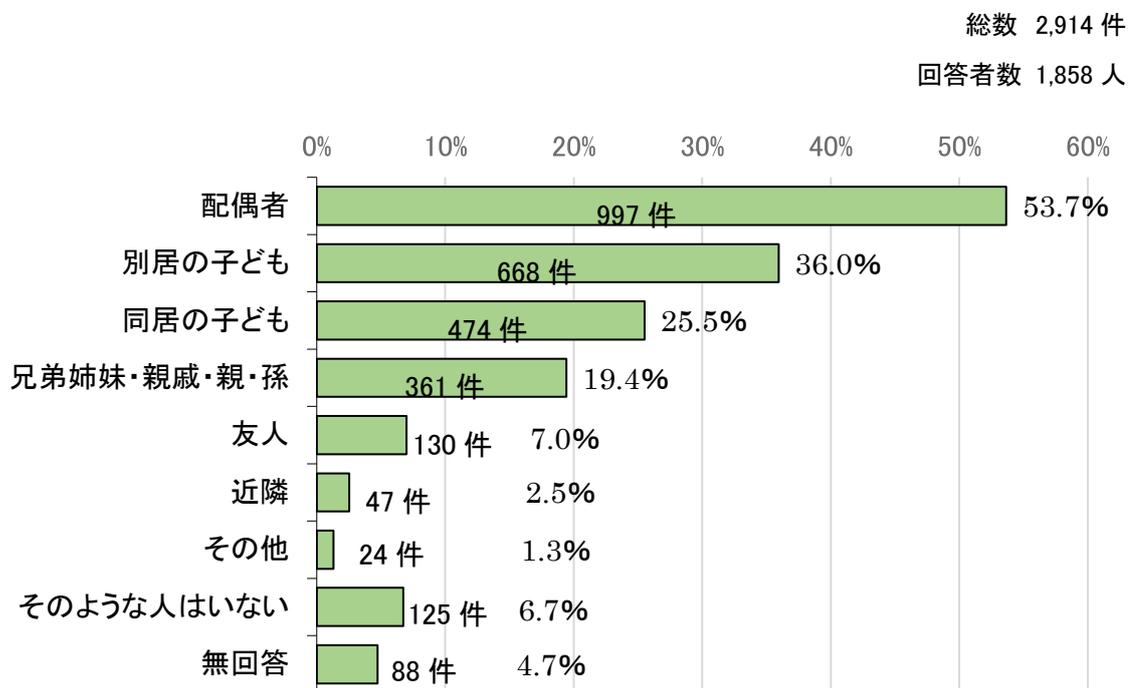
【地域住民の有志によるグループ活動に企画・運営として参加してみたいですか】



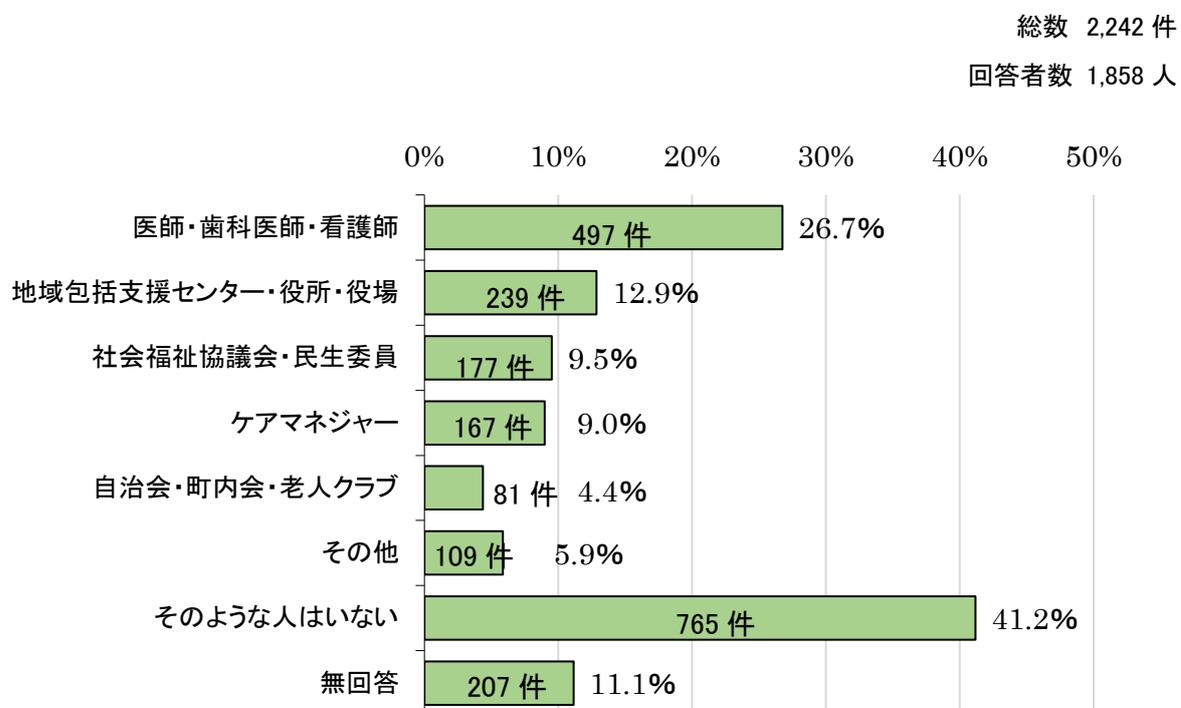
## キ たすけあいについて

たすけあいの状況については、助け合う方がいる割合がどの設問でも高く、「配偶者」が最も高くなっています。

### 【病気で寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人】（複数回答）



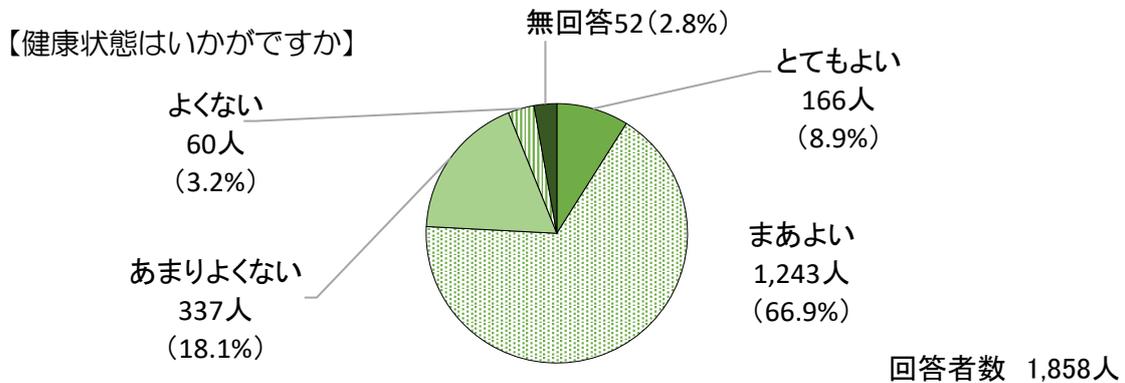
### 【家族や友人・知人以外で、相談する相手を教えてください】（複数回答）



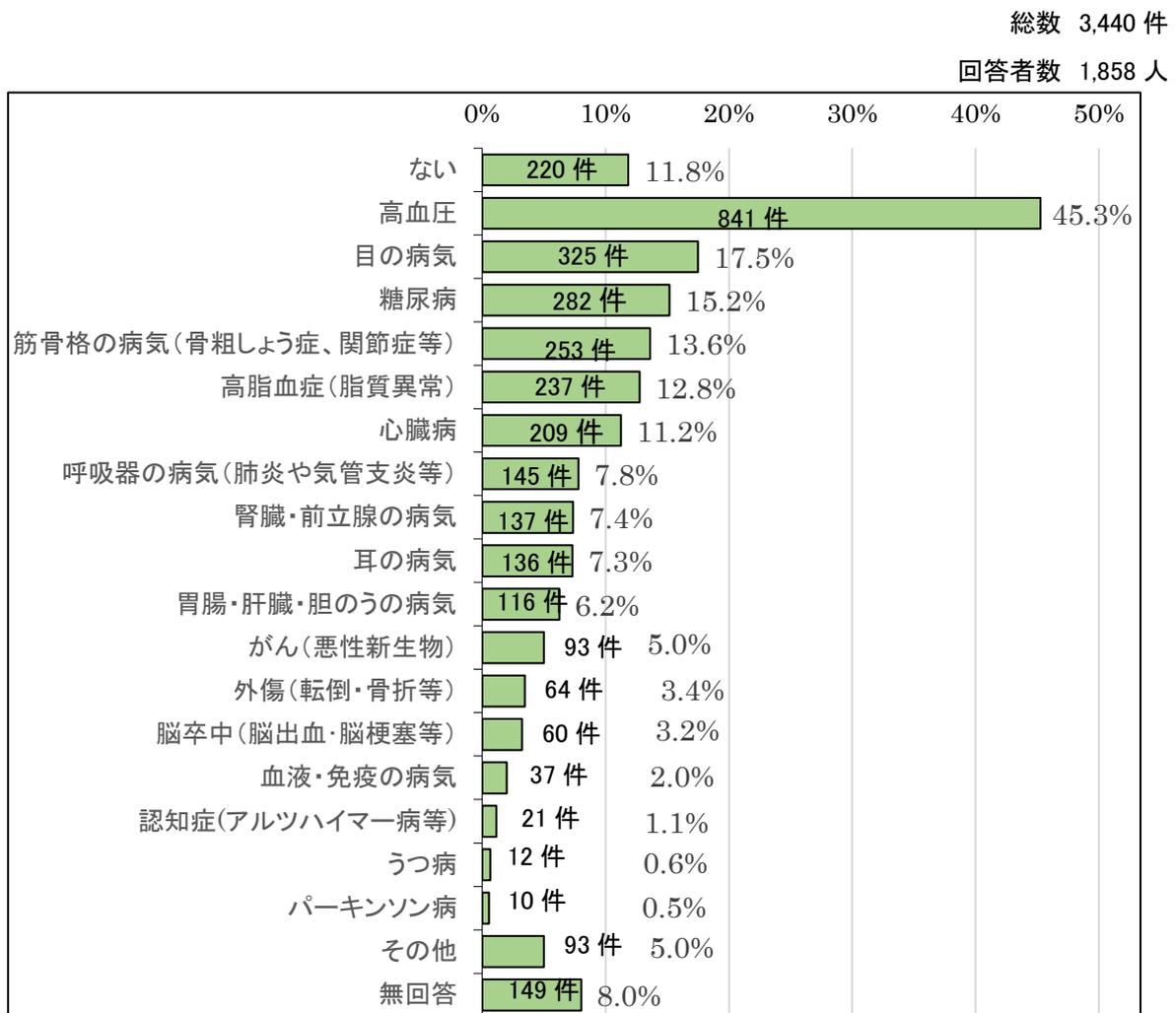
## ク 健康について

主観的健康感については、75.8%の方が「健康である」と回答している一方で、21.3%の方が「健康ではない」と感じています。

現在治療中の病気について、80.2%の方が「ある」と回答しています。最も多いのは「高血圧」で、次いで「目の病気」、「糖尿病」です。男性では、「高血圧」に次いで「糖尿病」が多く、女性では、「高血圧」に次いで「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」の割合が多いです。



## 【現在治療中、又は後遺症のある病気はありますか】（複数回答）

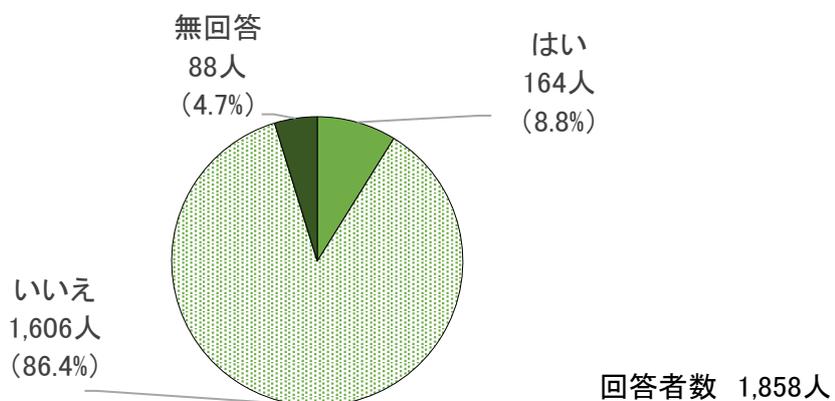


ケ 認知症にかかる相談窓口の把握について

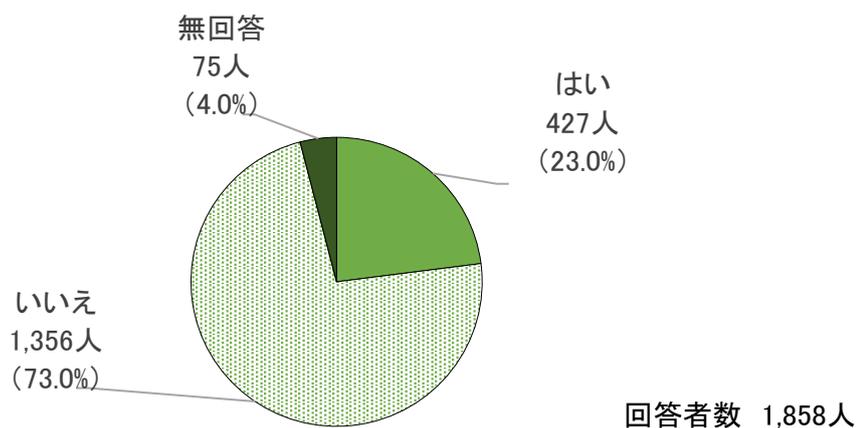
認知症の症状のある又は家族に認知症の症状がある方は、8.8%となっています。

相談窓口を知っている方の割合は、23.0%となっています。

【認知症の症状のある又は家族に認知症の症状がある人がいますか】



【認知症に関する相談窓口を知っていますか】



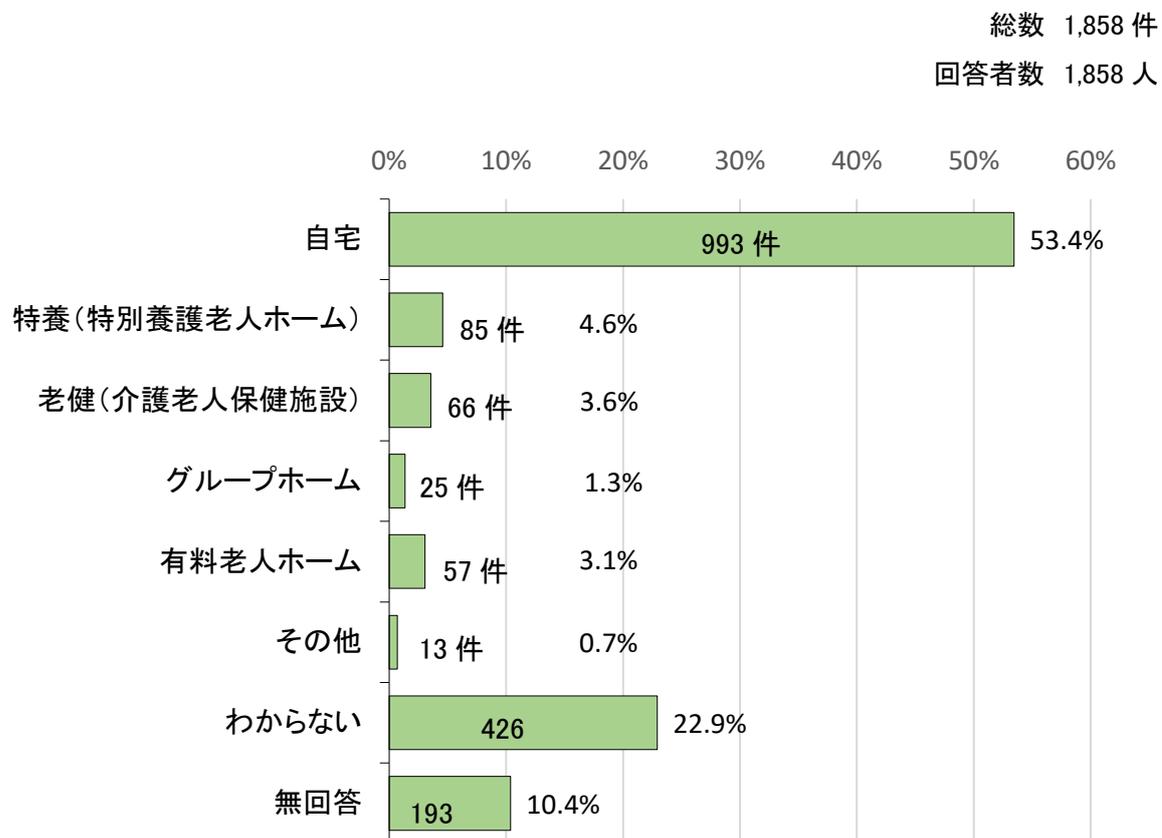
◆全国の推計において令和7（2025）年には65歳以上高齢者の約5人に1人が認知症になると見込まれています。65歳以上高齢者が約4割を占める本市においても例外ではないため、認知症ケアパスなどを利用し、認知症に関する相談窓口の更なる周知が必要です。

コ その他

(ア) 介護保険サービスを受けて生活する場合の生活場所について

介護保険サービスを受けて生活する場合の生活場所については、「自宅」での生活を望む方が53.4%となっており、「わからない」が22.9%となっています。

【あなたは、介護保険サービスを受けて生活する場合、どこでの生活を望んでいますか】  
(複数回答)



(イ) 住居や周りの環境について

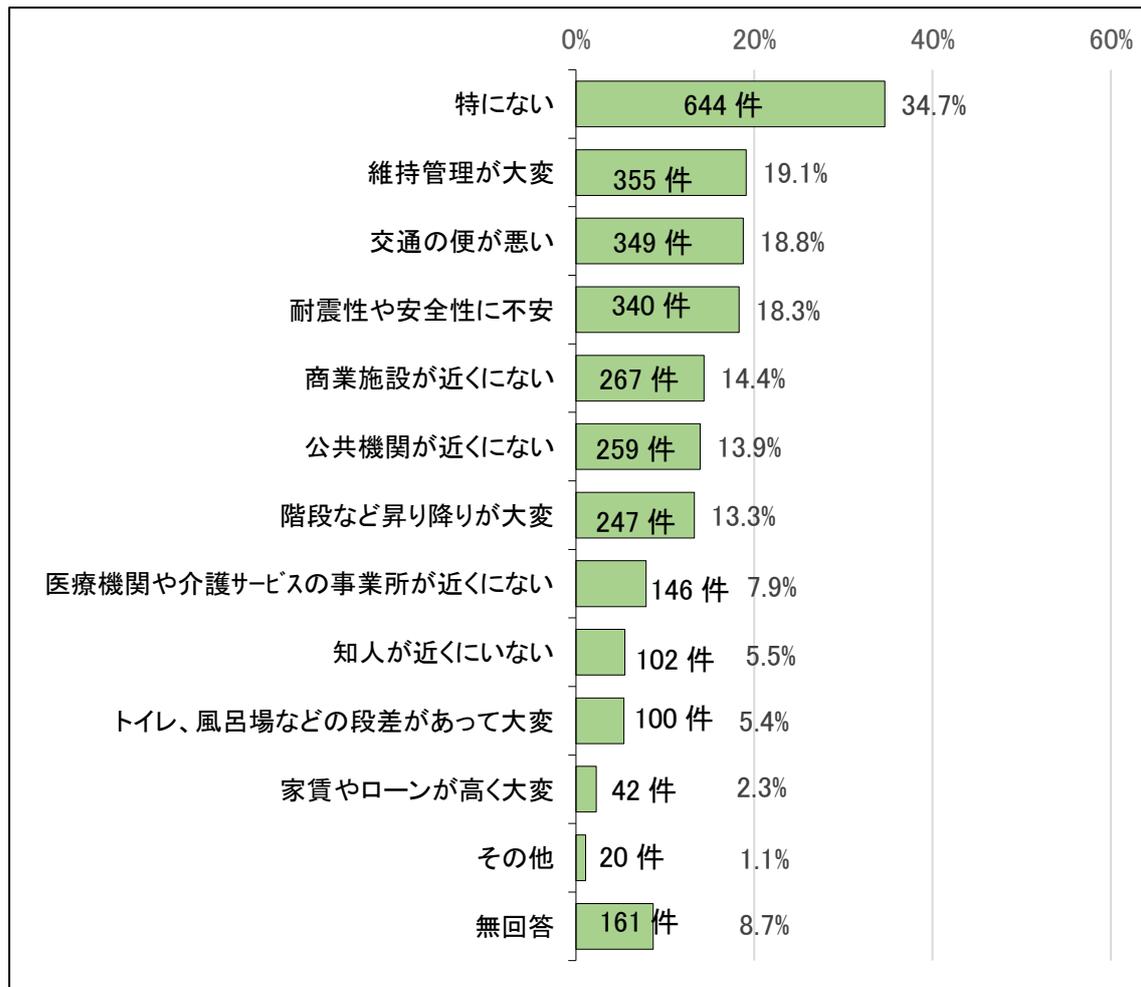
住居やその周りの環境で不便なことや困っていることについては、「特にない」という回答が34.7%ですが、「維持管理が大変」が19.1%、「交通の便が悪い」が18.8%、「耐震性や安全性に不安」が18.3%となっています。

【お住まいやその周りの環境で、不便なことや困っていることがありますか】

(複数回答)

総数 3,032 件

回答者数 1,858 人



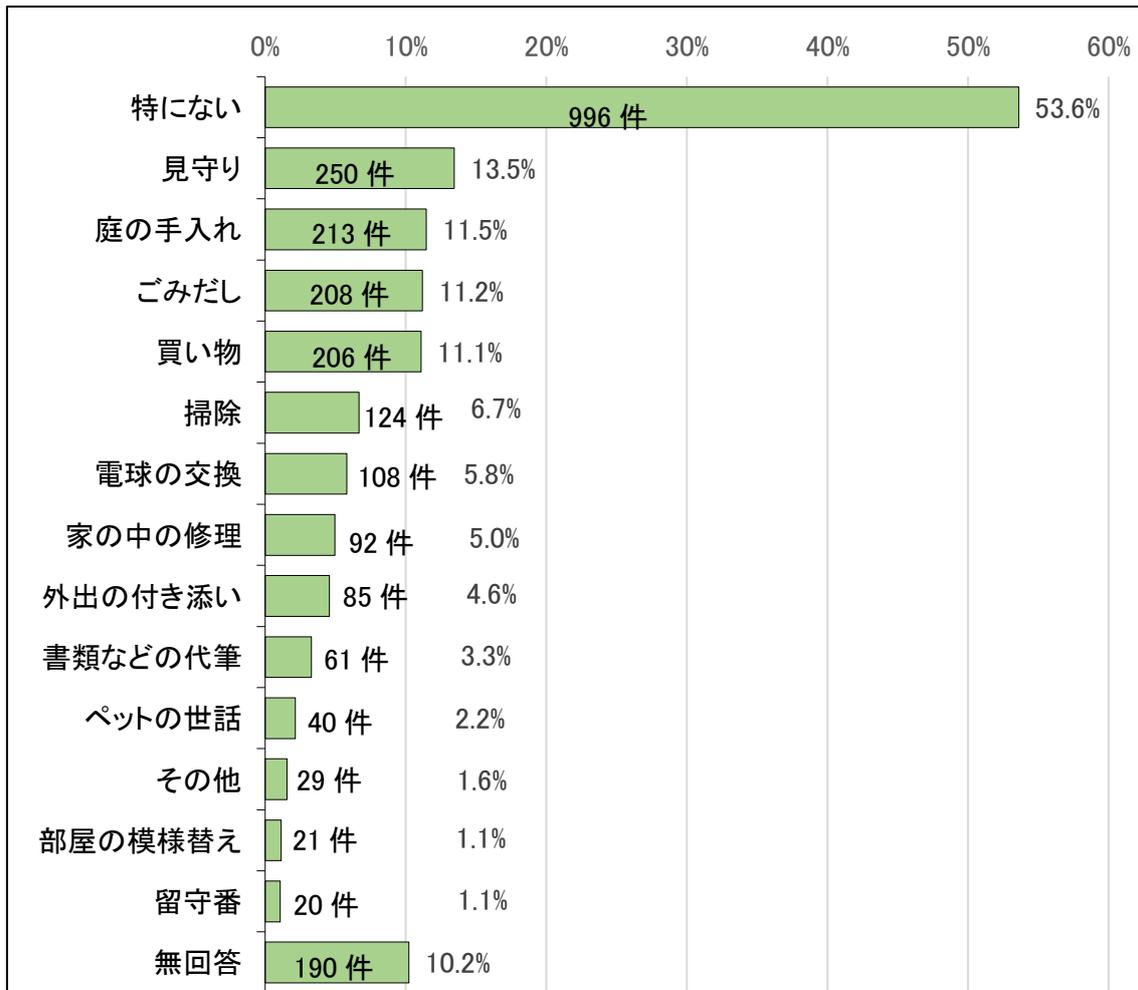
(ウ) 地域で高齢者を支え合う支援について

地域で高齢者を支え合う支援として地域の方にしてもらいたい（してみたい）と思う支援については、「特にない」という回答が53.6%です。その次に「見守り」が13.5%、「庭の手入れ」が11.5%、「ごみだし」が11.2%となっています。

【地域で高齢者を支え合う支援として、地域の方にしてもらいたい（地域のためにしてみたい）と思う支援は何ですか】（複数回答）

総数 2,643 件

回答者数 1,858 人



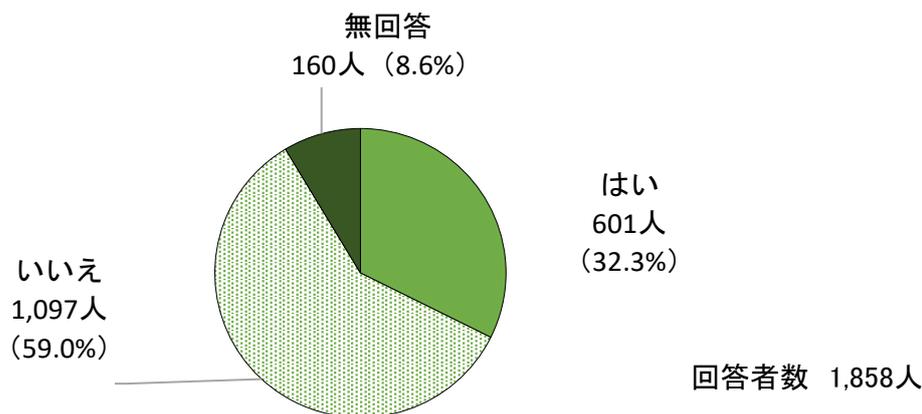
(工) 介護予防教室への参加意向等について

32.3%の方が「介護予防教室へ参加してみたい」と回答しています。男女別にみると、男性は25.2%、女性は38.0%となっています。

参加してみたい内容としては、「運動や体操の教室」が最も多く、次いで「ひざや腰痛改善の教室」、「認知症予防の教室」と続いています。

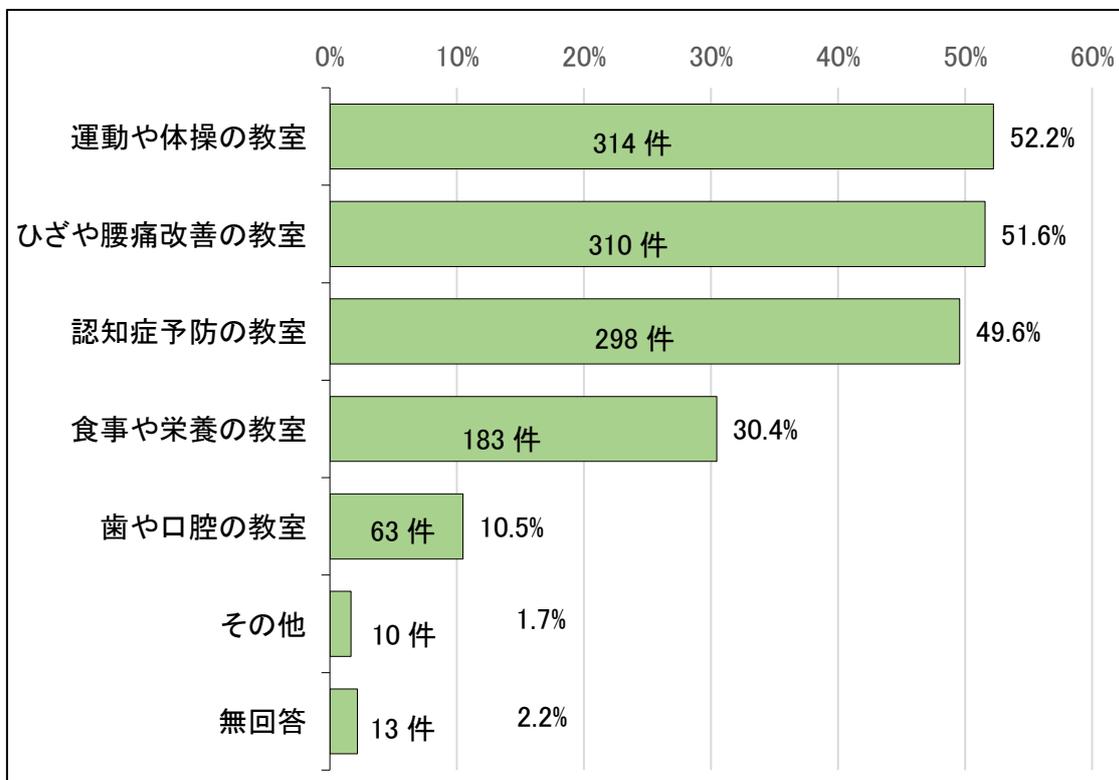
参加したくない理由については、「元気だから」が最も多く、次いで「面倒だから」、「自分で努力しているから」と続いています。

【市が実施する介護予防のための教室に参加してみたいと思いますか】



【どのような教室に参加したいと思いますか】（複数回答）

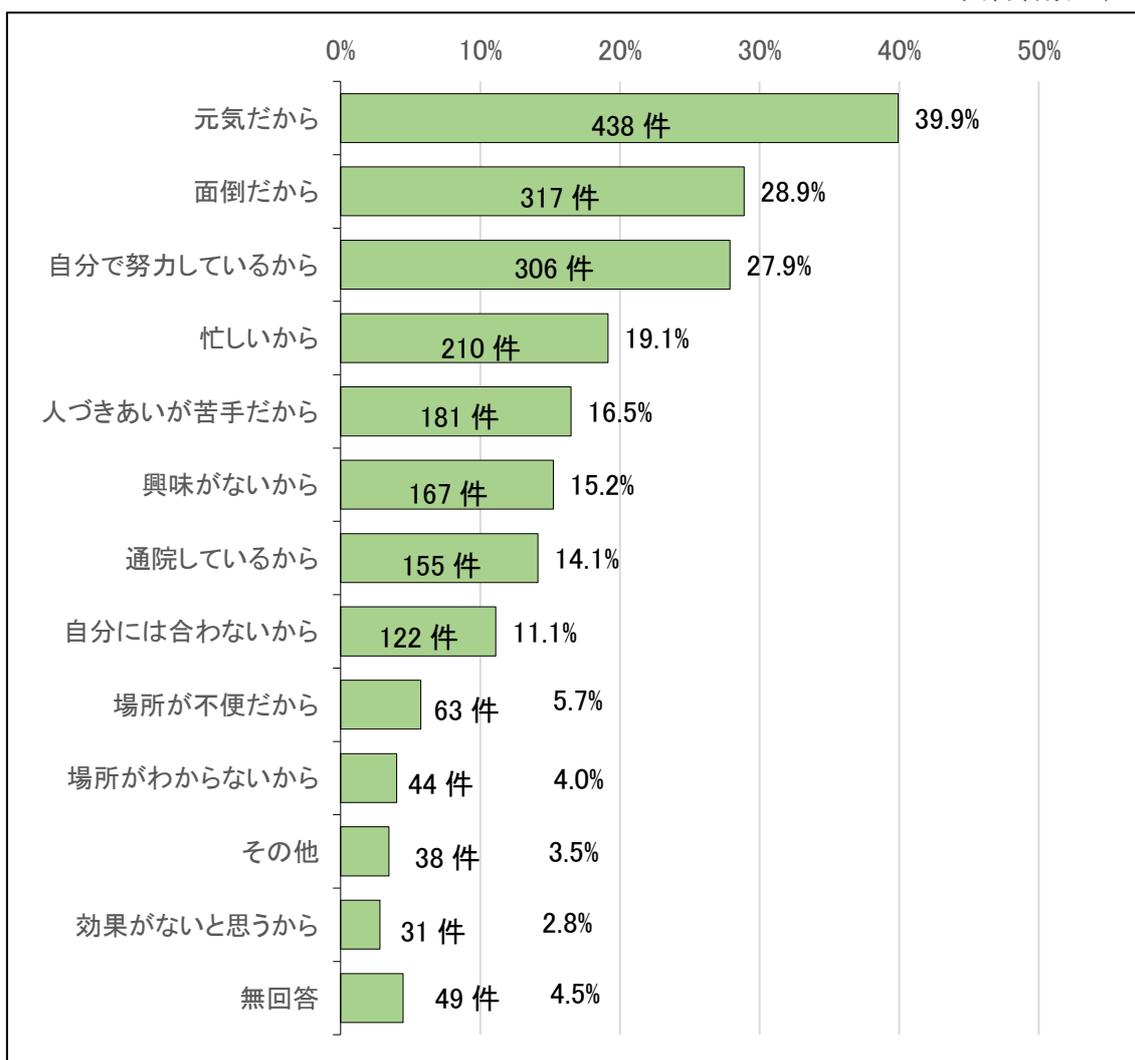
総数 1,191 件  
回答者数 601 人



【参加したくない理由は何ですか】（複数回答）

総数 2,121 件

回答者数 1,097 人



◆介護予防教室に参加してみたいと考えている男性はある程度いますが、実際は参加者のほとんどが女性です。多くの高齢者に興味や関心を持ち、参加しやすい教室の開催と情報提供が必要と考えられます。

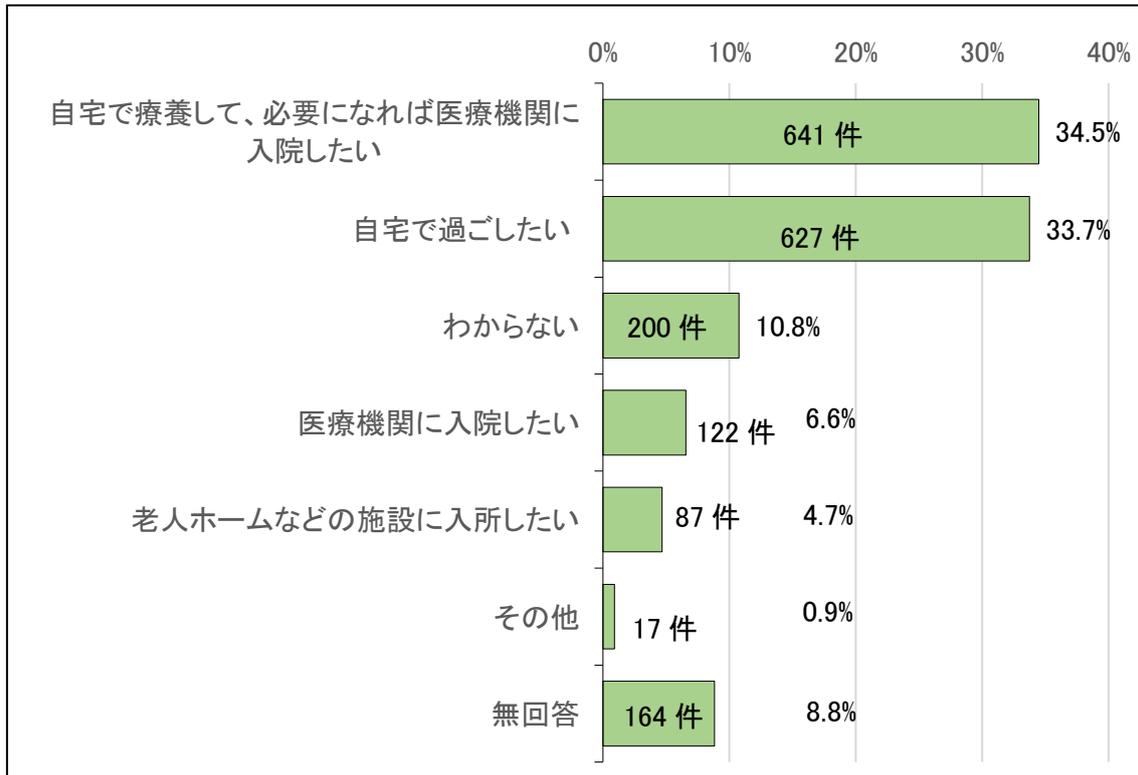
(オ) 人生の最期を迎えるときが来た場合の生活場所について

人生の最期に過ごしたい場所については、「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」が34.5%、「自宅で過ごしたい」が33.7%で、次いで、「わからない」が10.8%と続いています。

【あなたが人生の最期を迎えるときが来た場合、どこで過ごしたいですか】

(複数回答)

総数 1,858 件  
回答者数 1,858 人



サ 日常生活圏域別にみた特性

アンケート調査結果を3つの日常生活圏域別に分析しましたが、各質問の項目の回答については、大きな差異は見られませんでした。

### 3 在宅介護実態調査の概要

#### (1) 調査の目的

今回、第9期計画を策定するにあたり、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するための基礎資料にするために、調査を実施しました。

#### (2) 調査対象者・調査方法等

##### ア 調査対象者

在宅で要介護・要支援認定を受けている方のうち、認定の更新又は区分変更の申請により認定調査を令和4年4月から令和5年5月31日までに受けた方。

##### イ 調査期間

令和4年10月～令和5年5月

##### ウ 調査内容

国が提示する「在宅介護実態調査（全19問）」

##### エ 調査方法

・令和4年4月1日から同年9月30日までの間に認定の更新又は区分変更を申請した方については、郵送にて実施しました。

・令和4年10月1日から令和5年5月31日までの間に認定の更新又は区分変更を申請した方については、認定調査の後に、認定調査を行った調査員が、本人から同意を得られた場合にのみ面談にて実施しました。

#### (3) 回収結果

812人

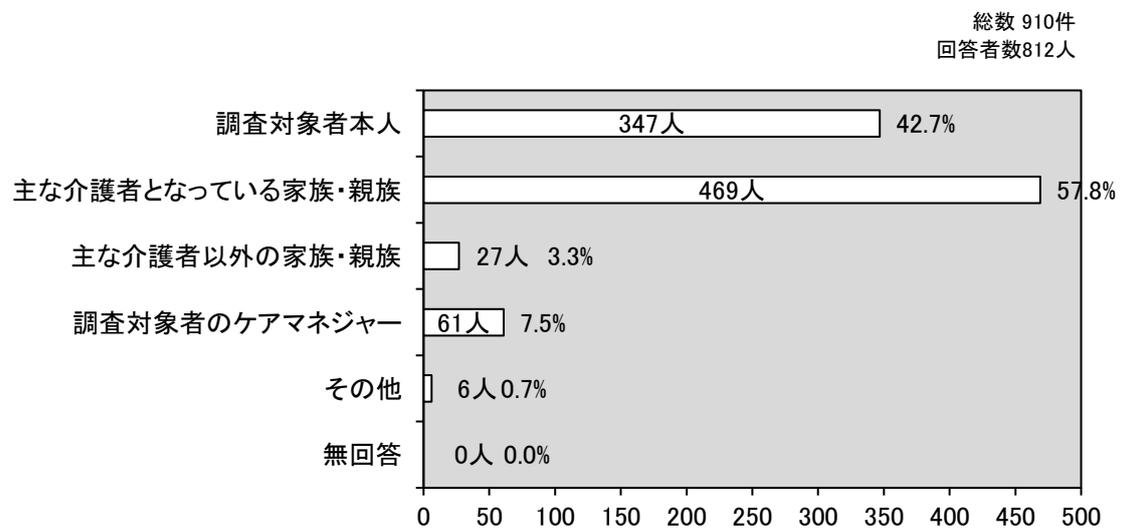
#### (4) 調査結果の表記について

ア グラフ内で示されている割合の表記は、複数回答の場合、その選択肢を選んだ方の割合(%)を表しているため、合計値が100%を超える場合があります。また、少数点以下第2位で四捨五入しているため、単数回答であっても、合計値が100%にならない場合があります。

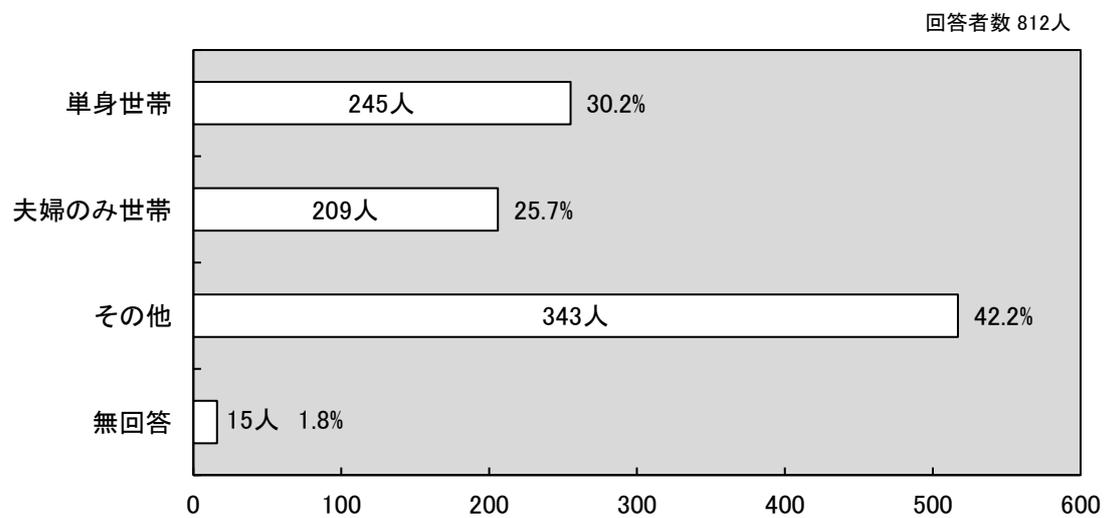
イ 本市での調査結果に加えて、厚生労働省から公表された全国の調査結果も合わせて考察をしていきます。全国の調査結果については、選択肢ごとの件数が公表されていないため、割合(%)のみの表示になっています。

(5) 聞き取りを行った相手及び世帯類型

【聞き取りを行った相手】(複数回答)



【世帯類型】(単数回答)



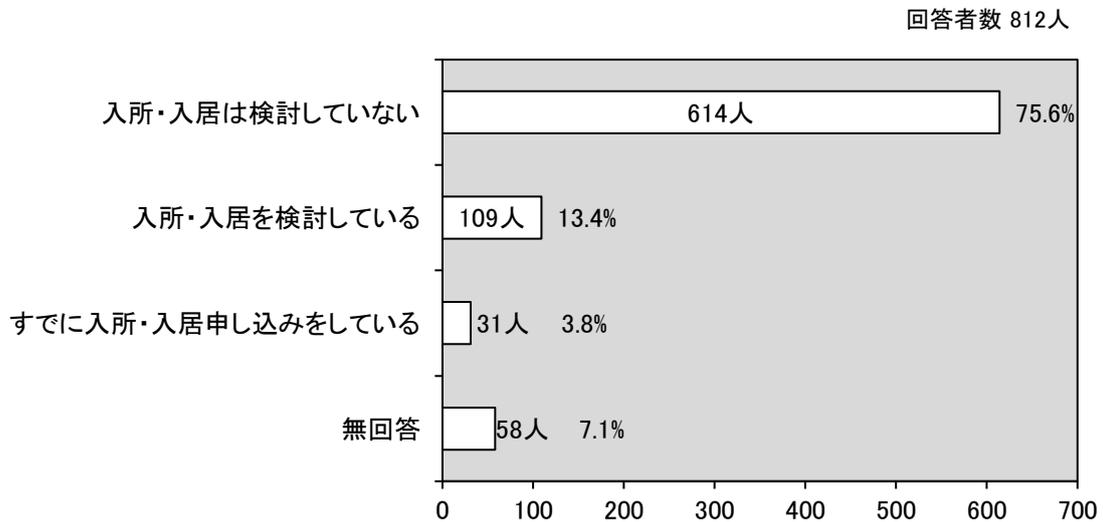
(6) 調査結果及び現状の分析結果

ア 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制について

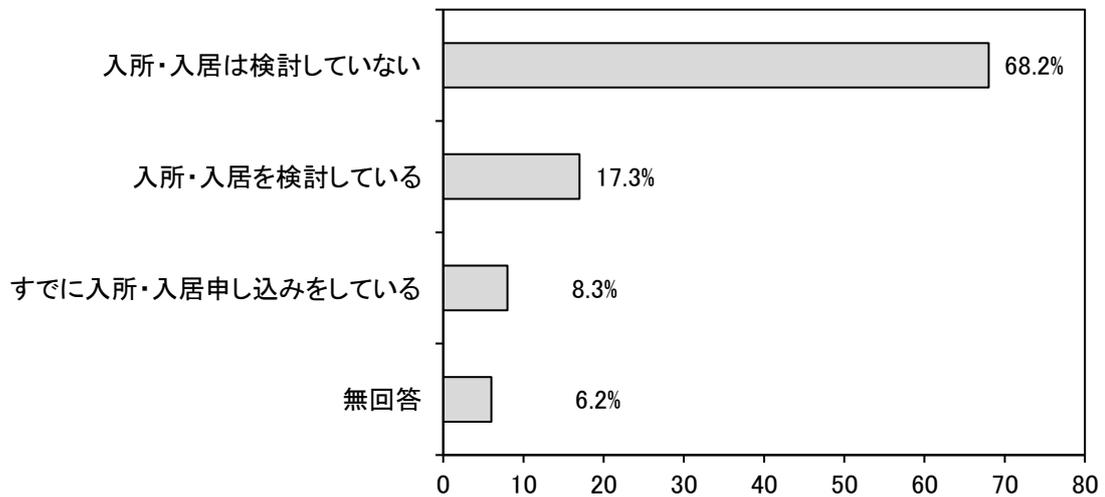
在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するため、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の視点から、本市の現状を分析します。

【施設等検討の状況】(単数回答)

[三浦市]



[全国]



◆ 本市では「入所・入居を検討している」が13.4%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が3.8%という結果となりました。全国の調査結果では「入所・入居を検討している」が17.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が8.3%となりました。

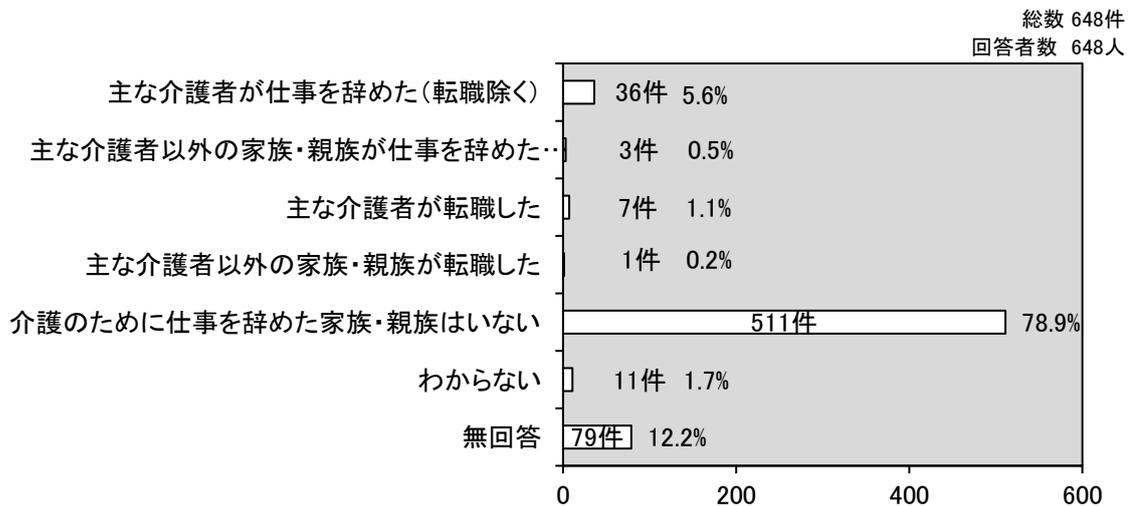
イ 仕事と介護の両立に向けた支援・サービス提供体制について

介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の視点から分析をします。

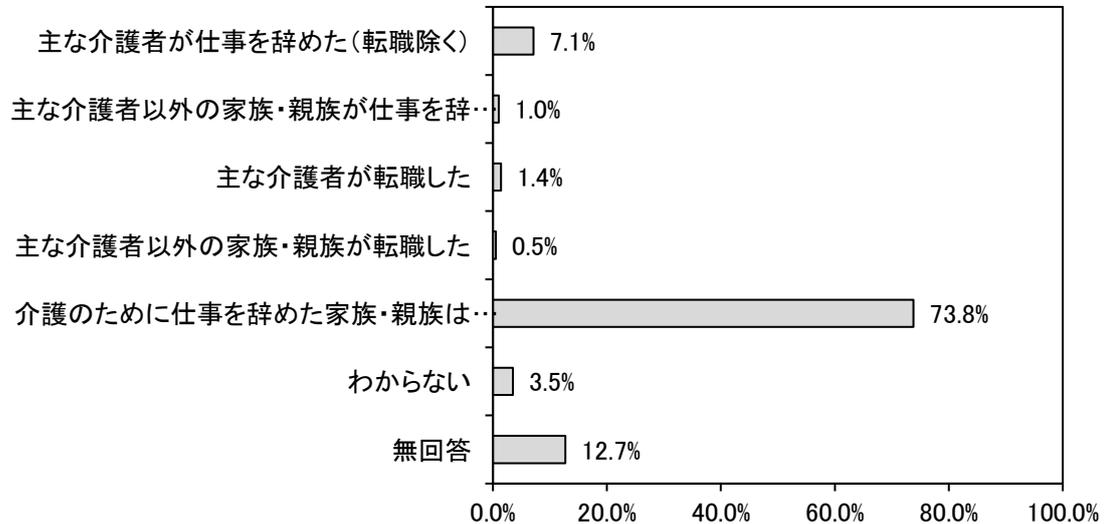
【介護のための離職の有無】（家族や親族から介護を受けている方のみ・複数回答）

※介護を主な理由として過去1年間の間に仕事を辞めたかどうかを質問しています。

[三浦市]

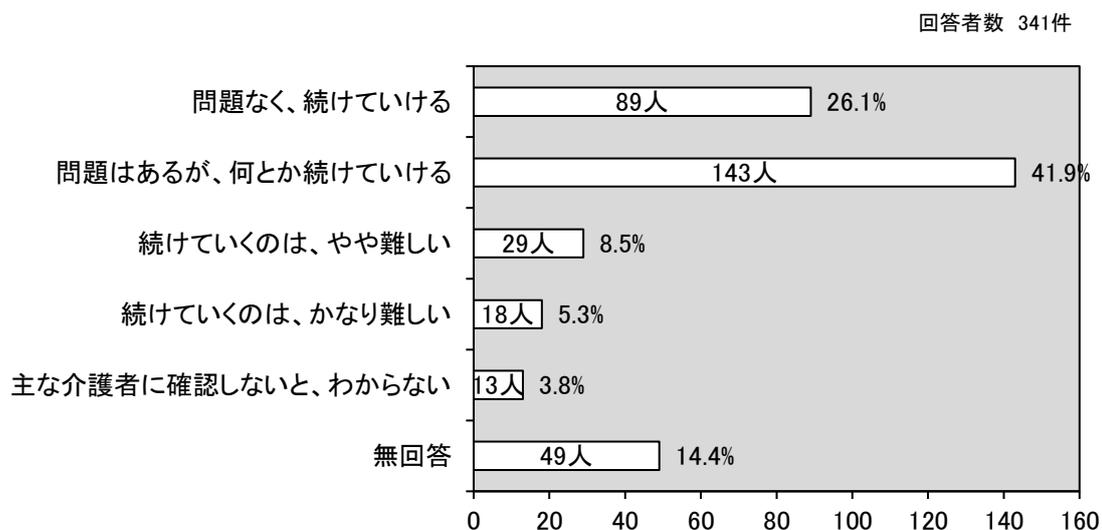


[全国]

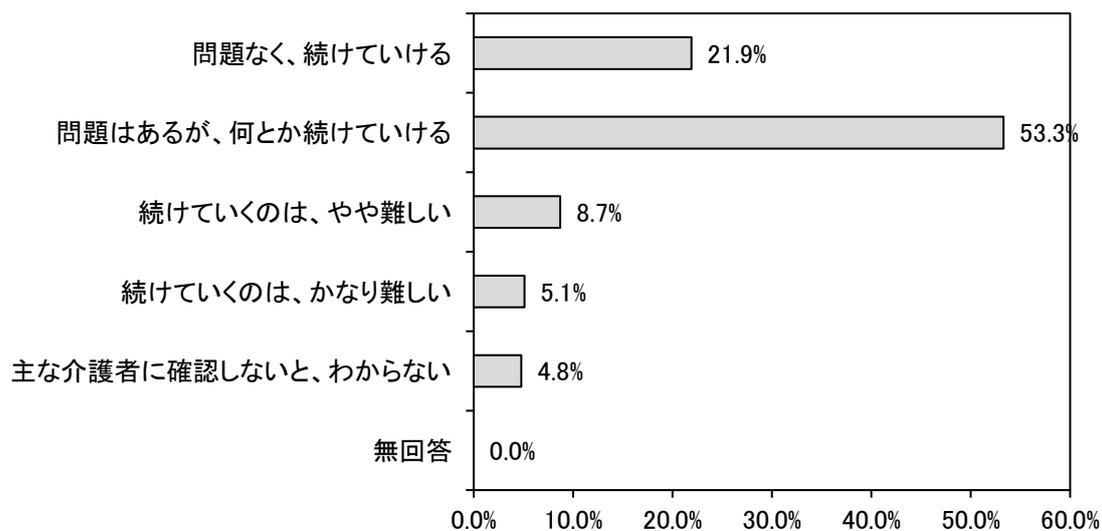


◆ 全国の調査結果と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」と回答した方は全国では73.8%、本市では78.9%と差は出ていましたが、回答の分布としては、大きな差はみられませんでした。

【主な介護者の就労継続の可否に係る意識】  
 (主な介護者が就労している方のみ・単数回答)  
 [三浦市]

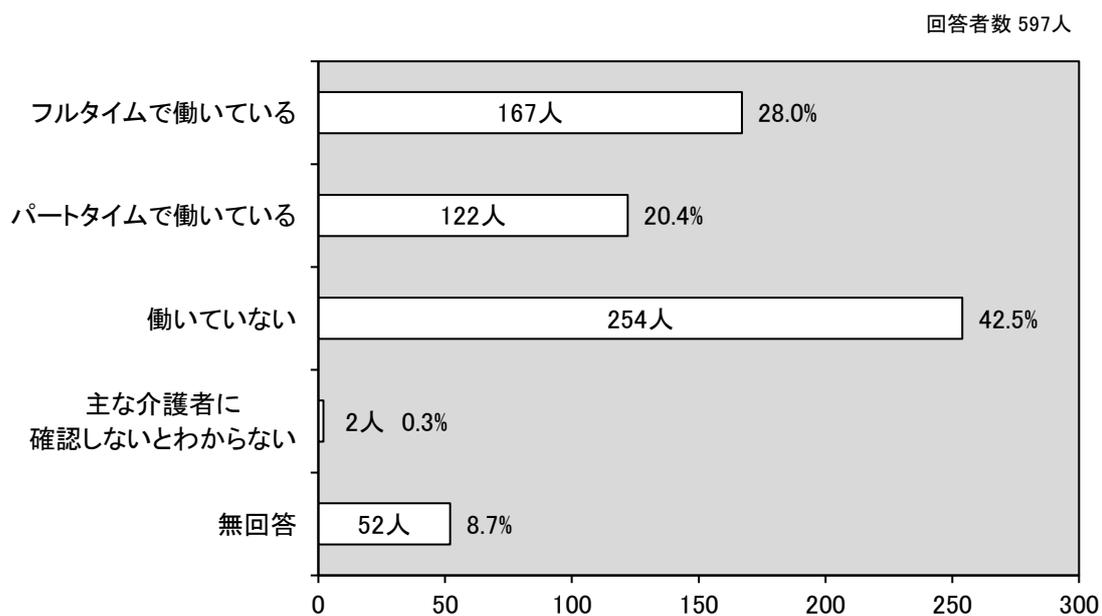


[全国]

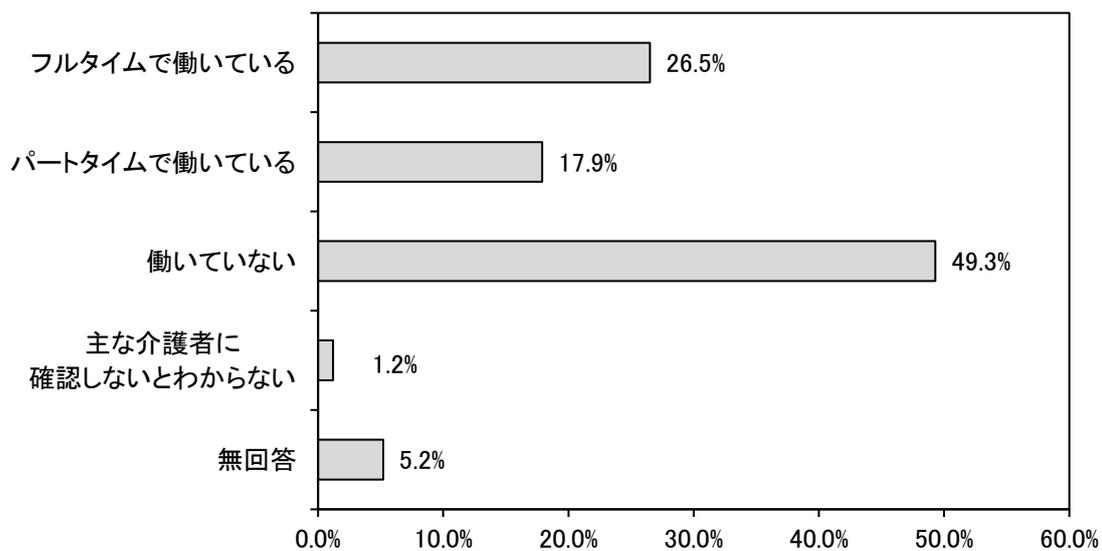


【主な介護者の勤務形態】（単数回答）

[三浦市]

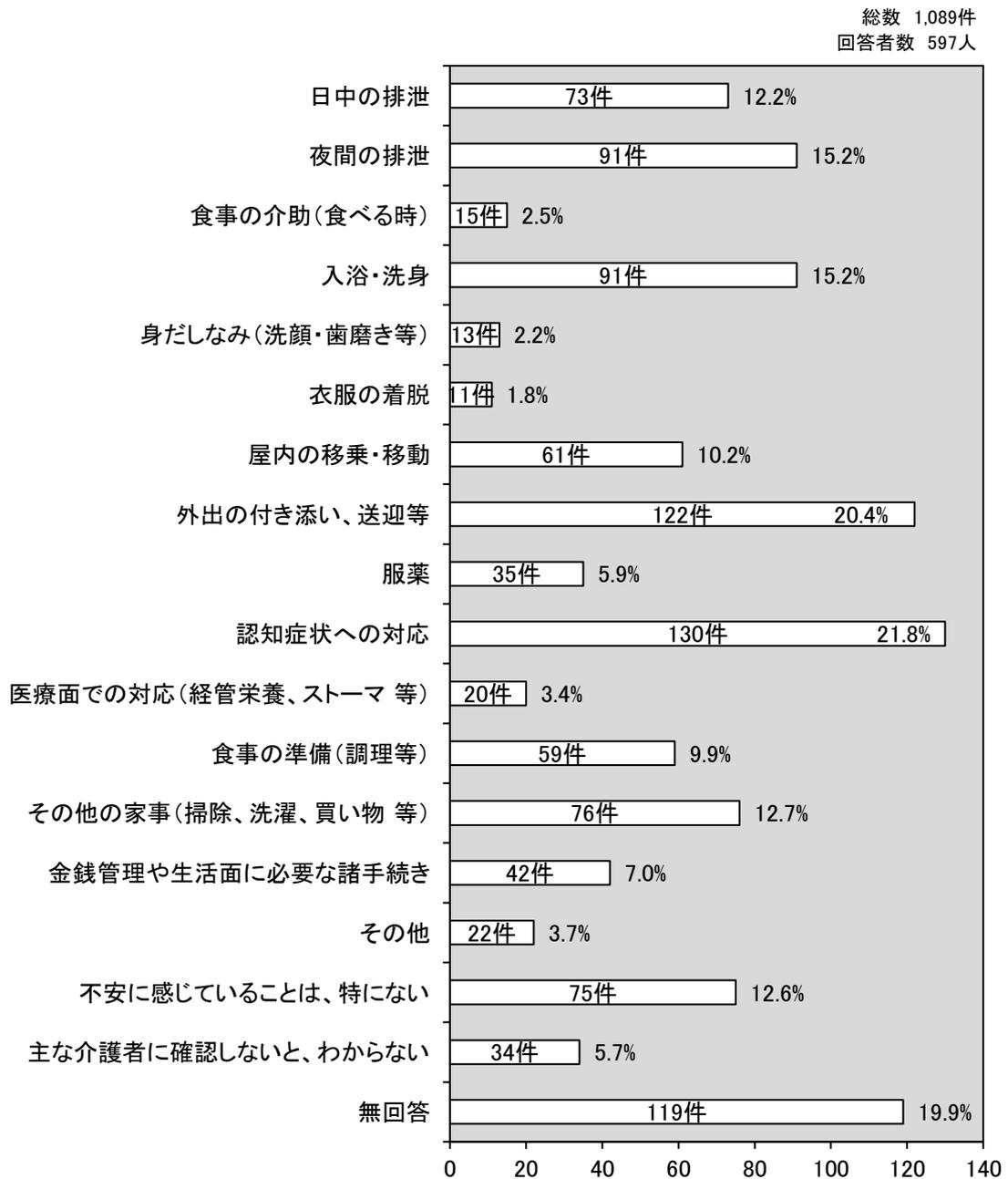


[全国]

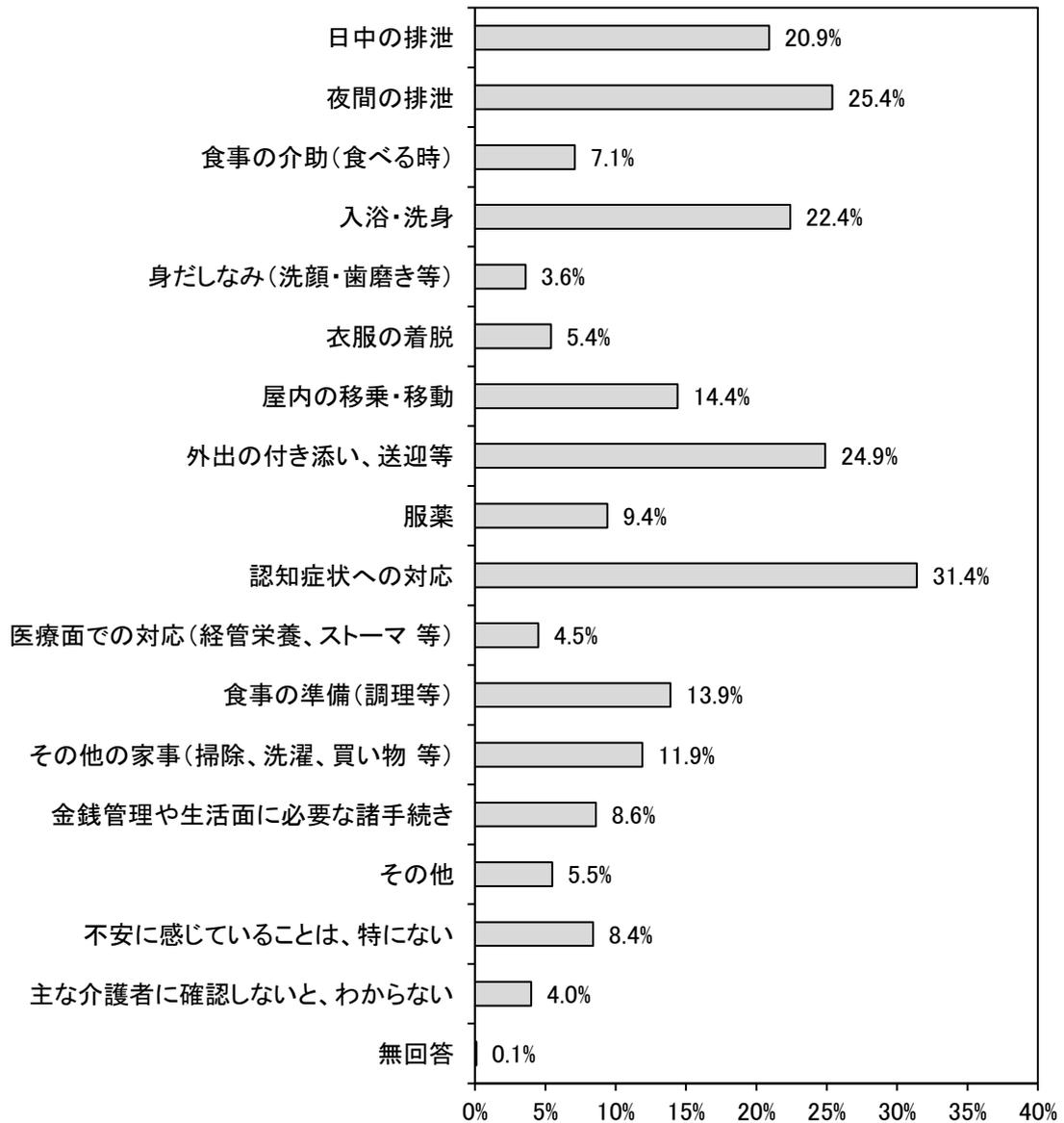


【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護】（複数回答）

[三浦市]



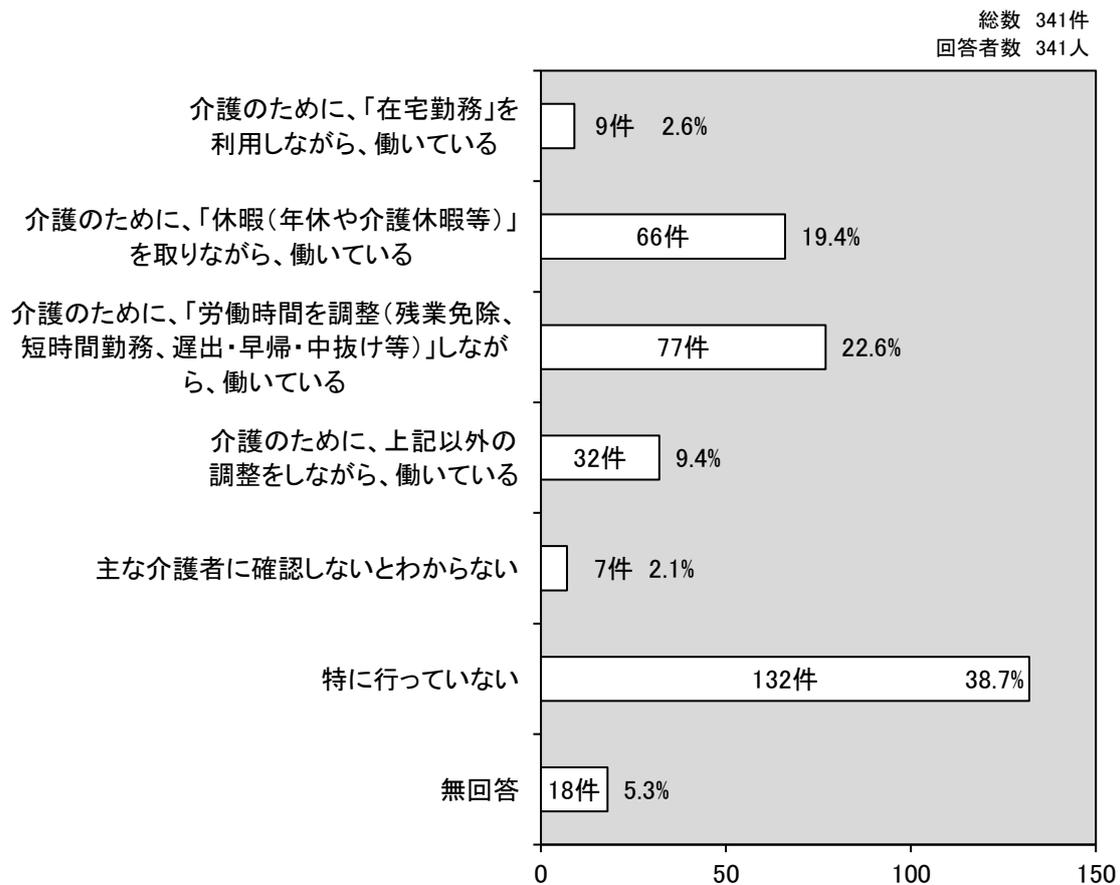
[全国]



◆ 全国の調査結果と比較すると、「不安に感じていることは、特にない」と回答した方は、全国では8.4%に対し、本市では12.6%でした。  
また、全国も三浦市も「認知症状への対応」と回答した方が最も多いという結果となりました。  
「認知症への対応」は、本市でも全国でも同じように、主な介護者が不安に感じており、認知症の方への支援やサービスの充実を図ることが、在宅限界点の向上につながるものと考えられます。

【主な介護者の働き方の調整状況】（主な介護者が就労している方のみ・複数回答）

[三浦市]



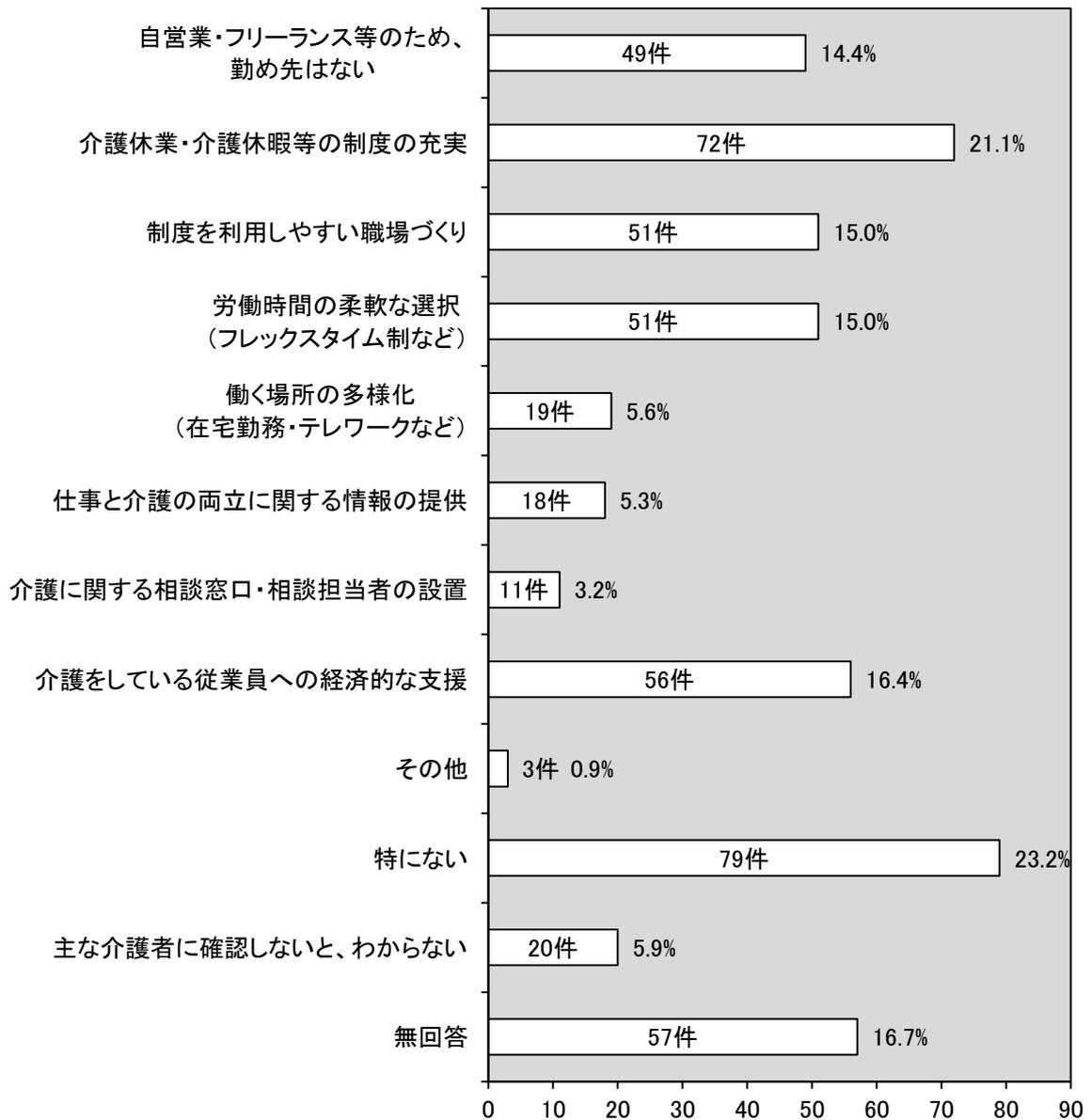
◆ 「特に行っていない」がもっとも多かったものの、全体としてみると何らかの調整をしている方は半数を超える結果となりました。

【就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援】

(主な介護者が就労している方のみ・複数回答)

[三浦市]

総数 486件  
回答者数 341人



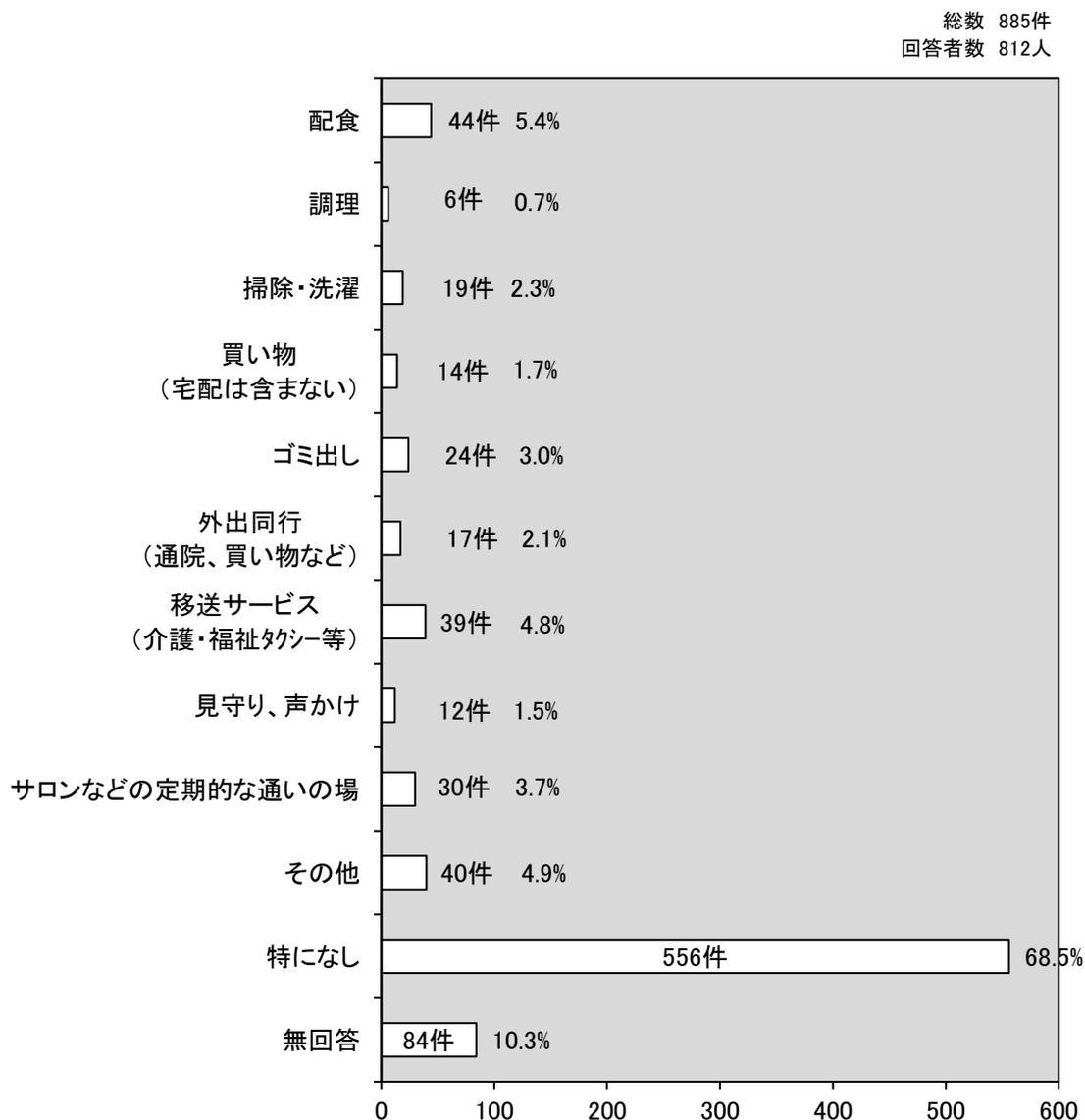
◆ 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「介護をしている従業員への経済的な支援」が多い結果となりました。

ウ 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備

在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「保険外の支援・サービス」の視点から、こういった支援・サービスの充実が必要となるかを分析します。

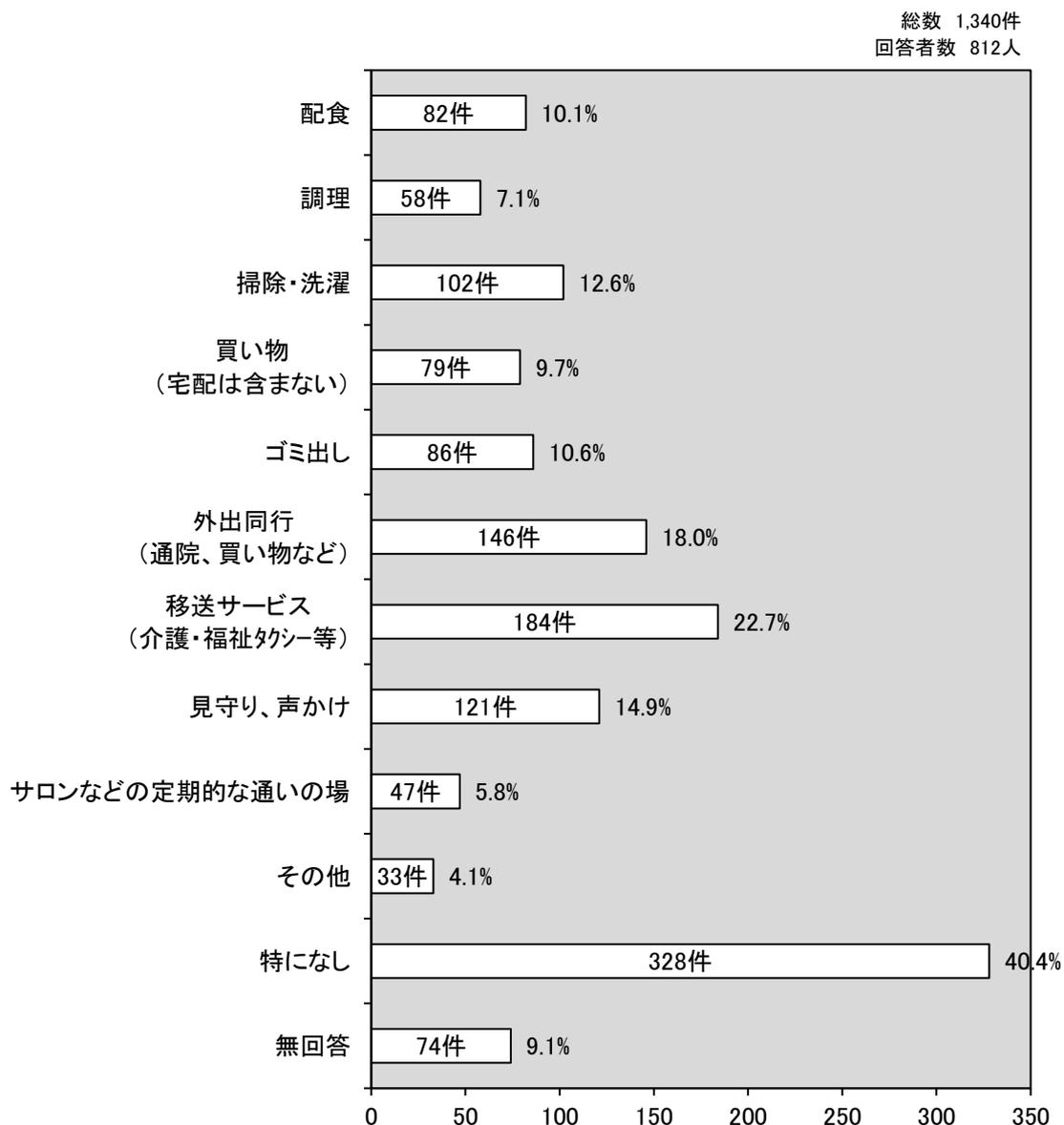
【保険外の支援・サービスの利用状況】（複数回答）

[三浦市]



【在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス】（複数回答）

[三浦市]



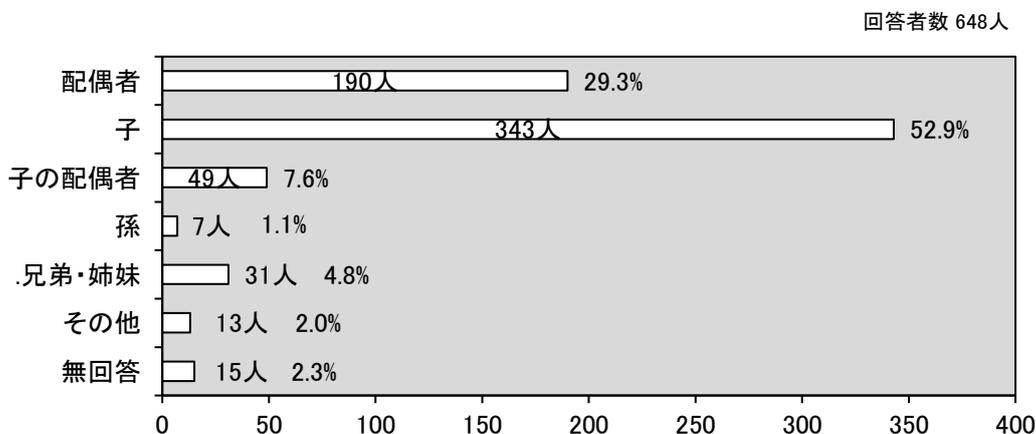
◆ 「移送サービス（介護・福祉タクシー）」「外出同行（通院、買い物など）」が多い結果となりました。これらの充実を図ることで、42ページの【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護】の本市の調査結果で多く見られた「認知症状への対応」や「外出の付き添い、送迎等」の解消につながる可能性があります。

エ 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制

在宅限界点の向上のため、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制を検討します。

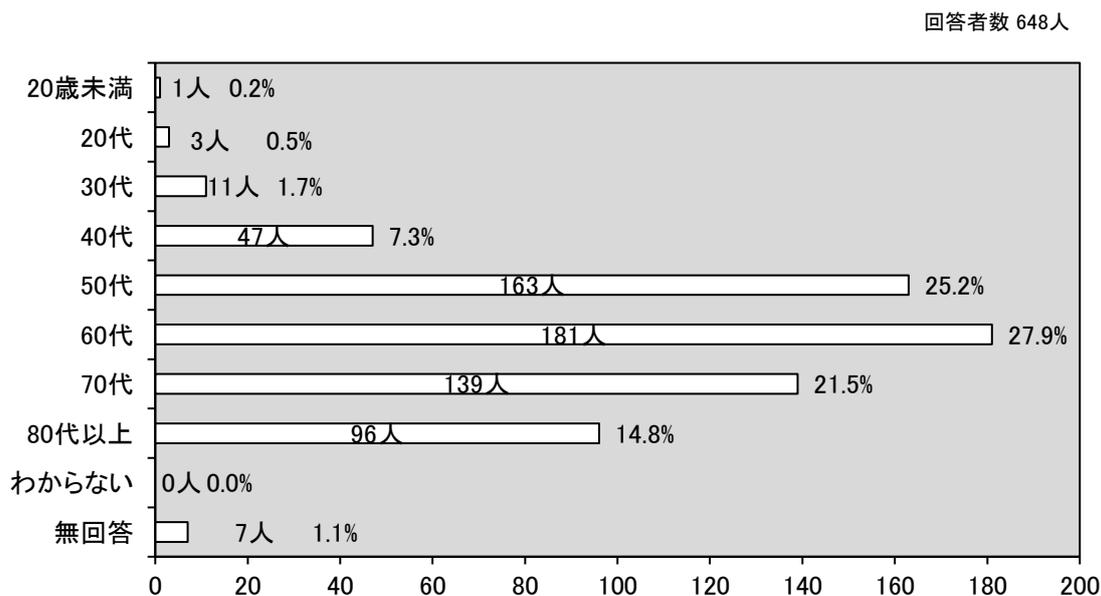
【主な介護者の本人との関係】（家族や親族から介護を受けている方のみ・単数回答）

[三浦市]



【主な介護者の年齢】（家族や親族から介護を受けている方のみ・単数回答）

[三浦市]



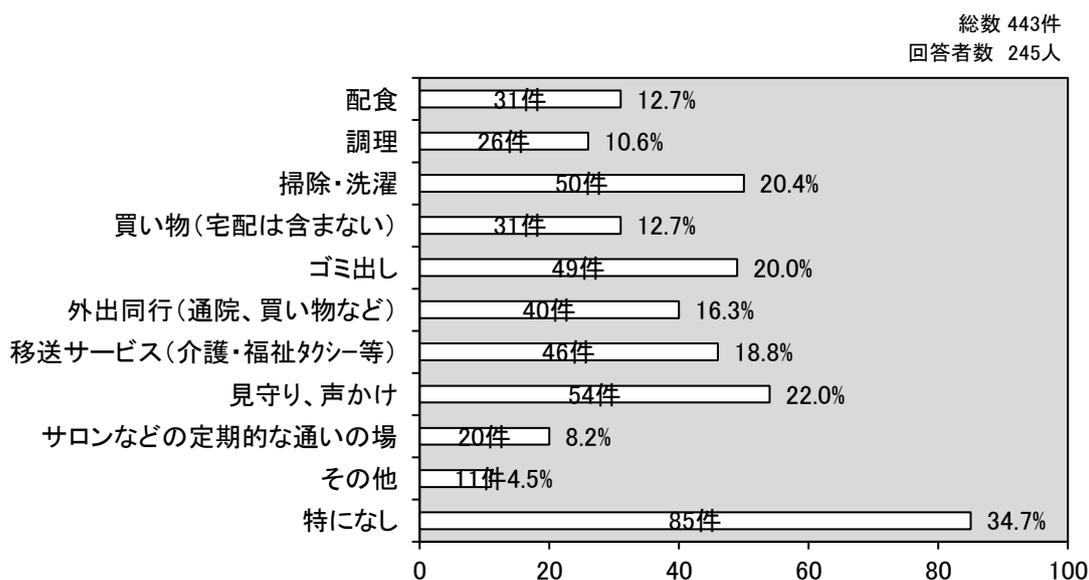
◆ 現在本市で要介護認定を受けている年齢層は、80代がもっとも多く、約半数を占めています。主な介護者の集計結果は、子が52.9%でもっとも多く、次いで配偶者が29.3%で、年齢は、50代、60代、70代が多い結果となりました。

現在の主な介護者が、介護が必要となる将来に向けて、家族のほかに、サービス・支援の体制を整えていく必要があります。

【在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス】

(【世帯類型】において、「単身世帯」を選択した方のみ・複数回答)

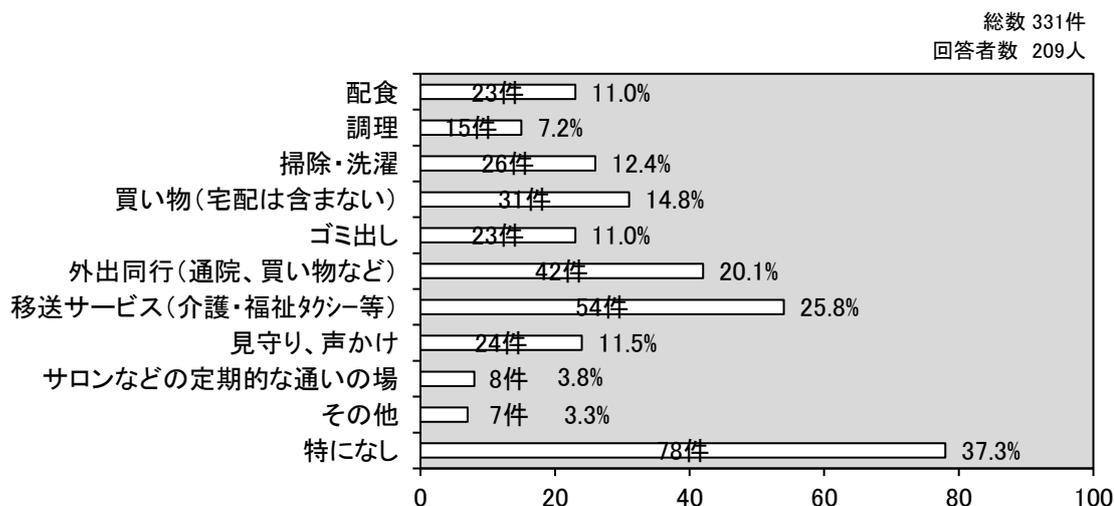
[三浦市]



【在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス】

(【世帯類型】において、「夫婦のみ世帯」を選択した方のみ・複数回答)

[三浦市]



◆ 37ページの【世帯類型】で、「単身世帯」を選択した方は、「見守り、声かけ」「掃除・洗濯」「ゴミ出し」が多く、「夫婦のみ世帯」を選択した方は、「移送サービス(介護・福祉タクシー)」「外出同行(通院、買い物など)」「買い物(宅配は含まない)」が多い結果となりました。

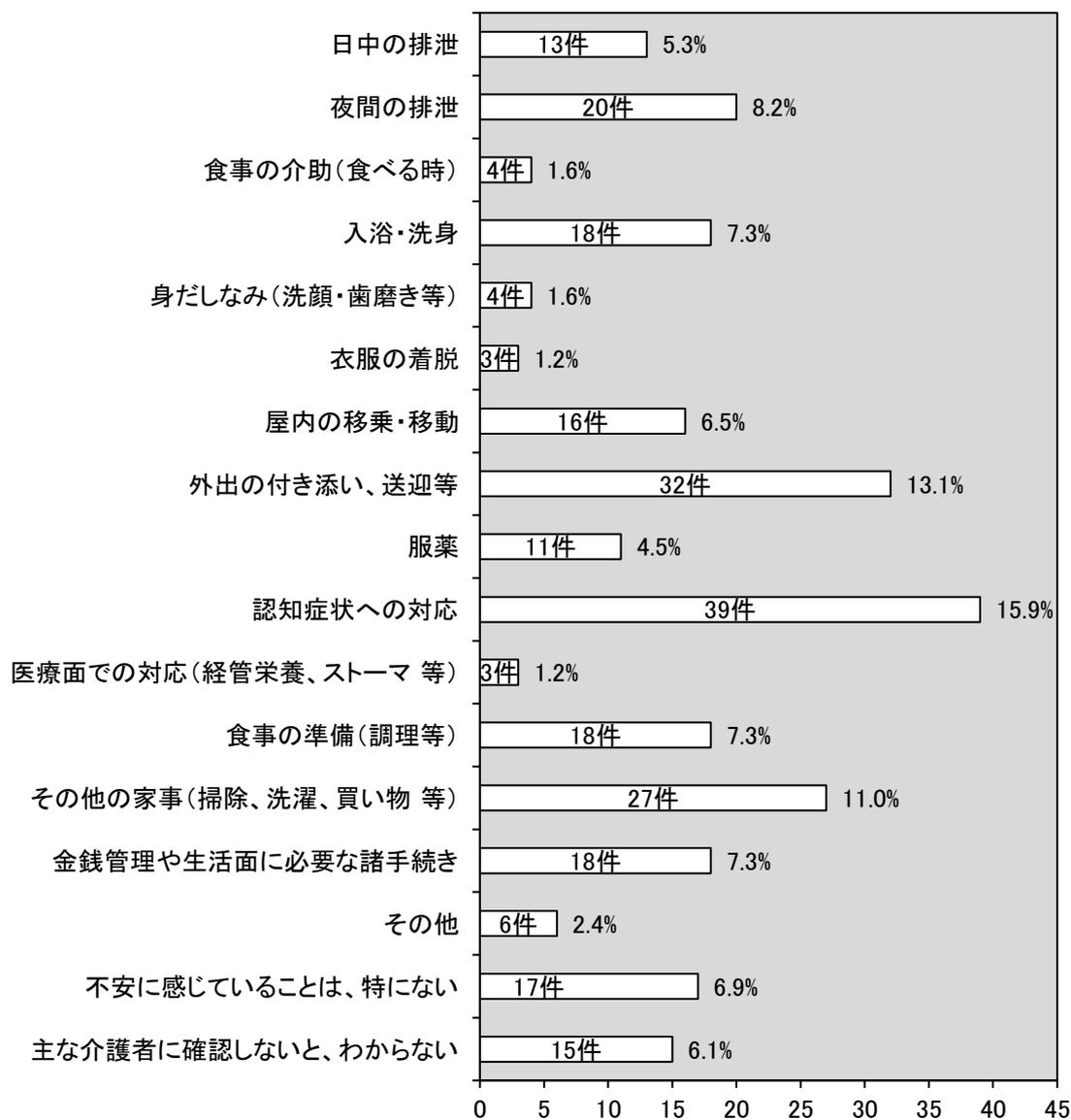
「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」で、ニーズの違いがあることがわかりました。

【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護】

(【世帯類型】において、「単身世帯」を選択した方のみ・複数回答)

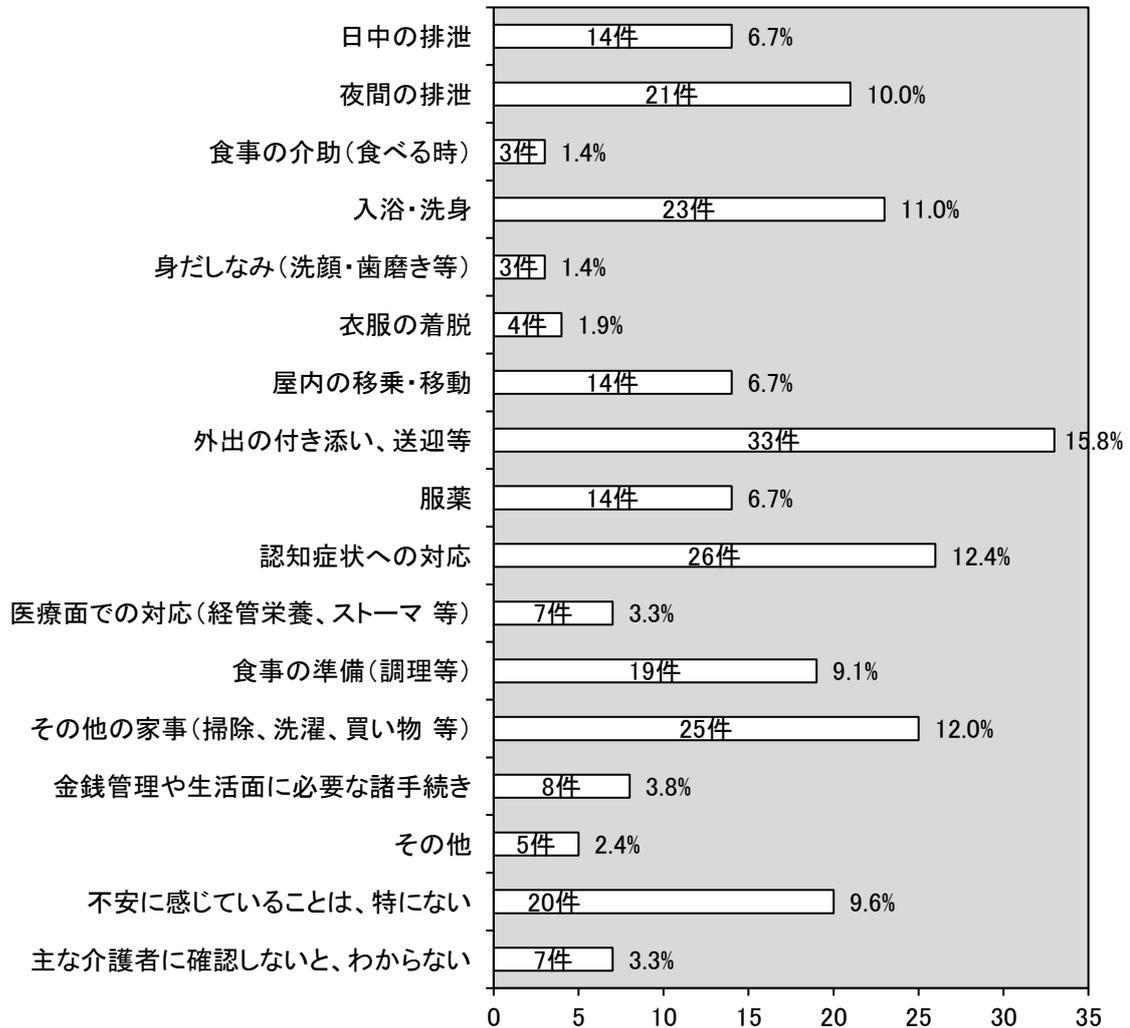
[三浦市]

総数 264件  
回答者数 245人



【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護】  
 (【世帯類型】において、「夫婦のみ世帯」を選択した方のみ・複数回答)  
 [三浦市]

総数 246件  
 回答者数 209人



◆ 37ページの【世帯類型】で、「単身世帯」を選択した方は、「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」が多く、「夫婦のみ世帯」を選択した方は、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が多い結果となりました。

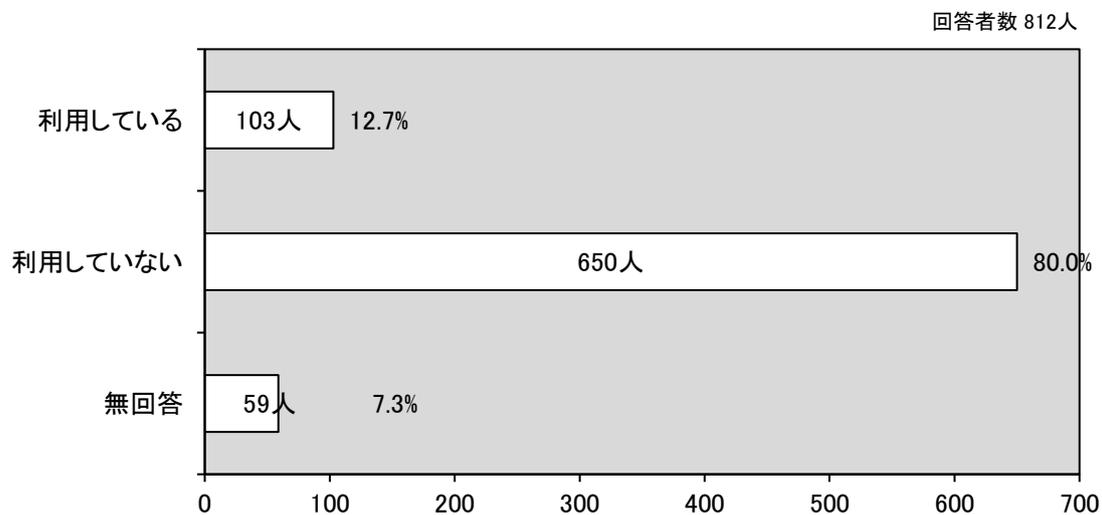
49ページの【在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス】では、「単身世帯」と「夫婦のみ世帯」でニーズに違いがありましたが、【今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護】では、不安については共通であることがわかりました。

才 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制

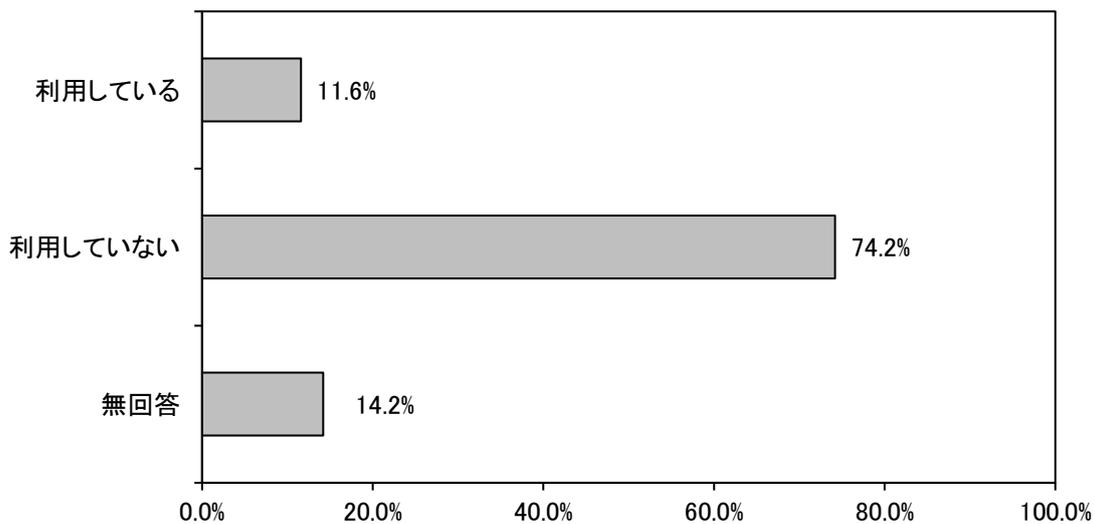
「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」などの分析を行います。

【訪問診療の利用の有無】（単数回答）

[三浦市]



[全国]

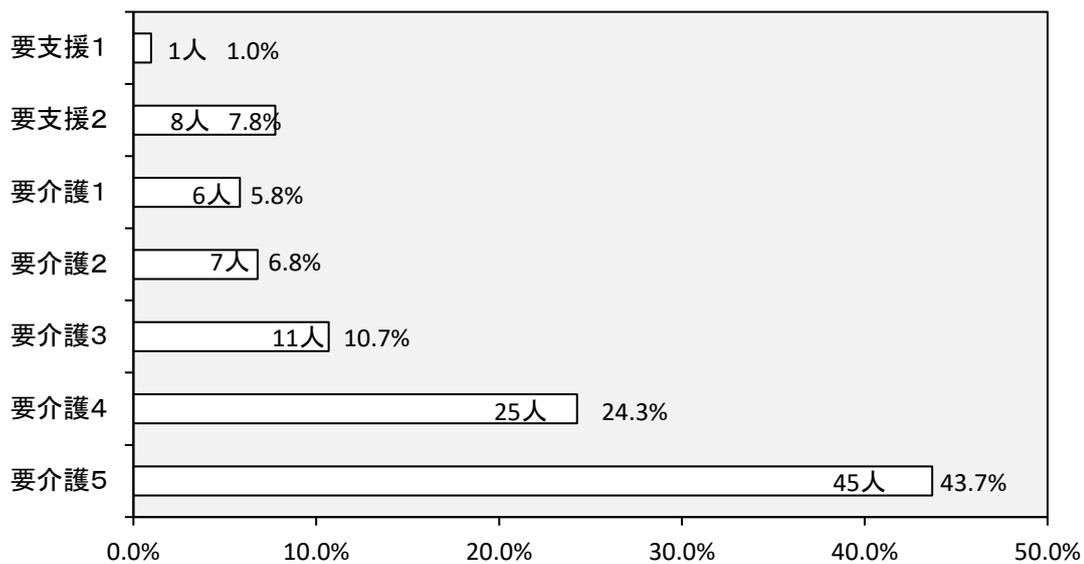


◆ 全国の調査結果と比較すると、「利用している」を選択した方の割合に、あまり差は見られませんでした。

【要介護度別訪問診療の利用割合】

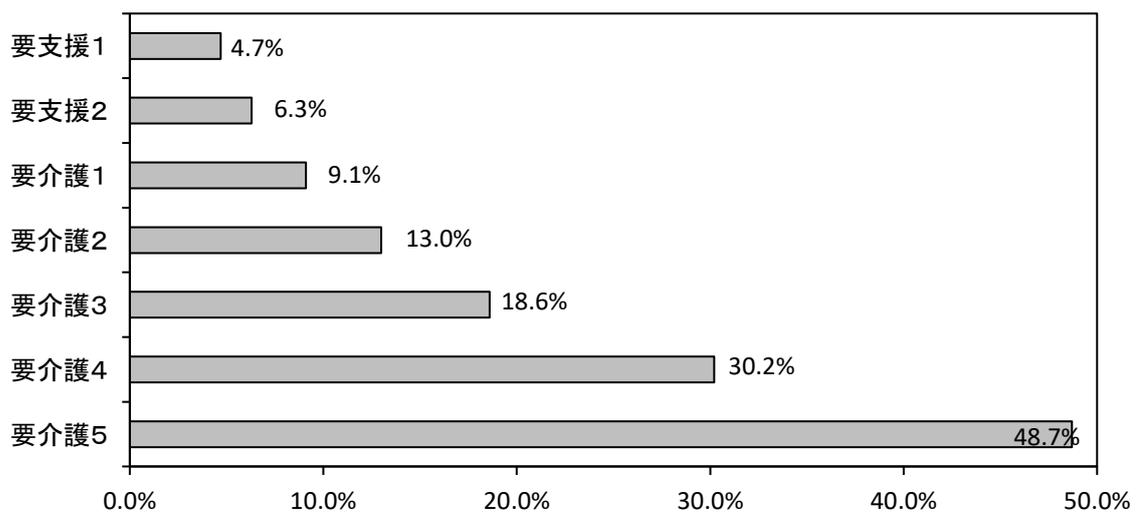
[三浦市]

回答者数103人



[全国]

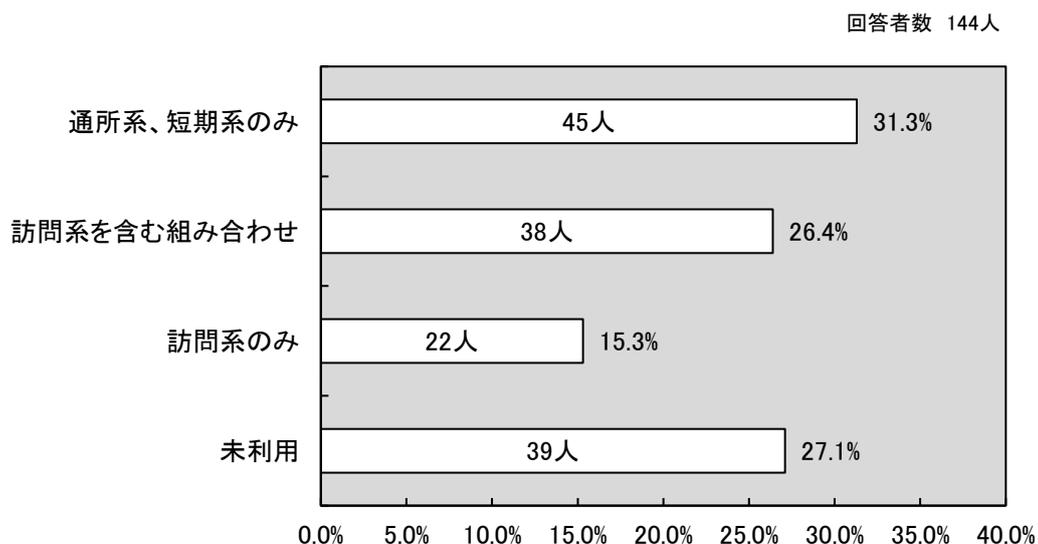
回答者数103人



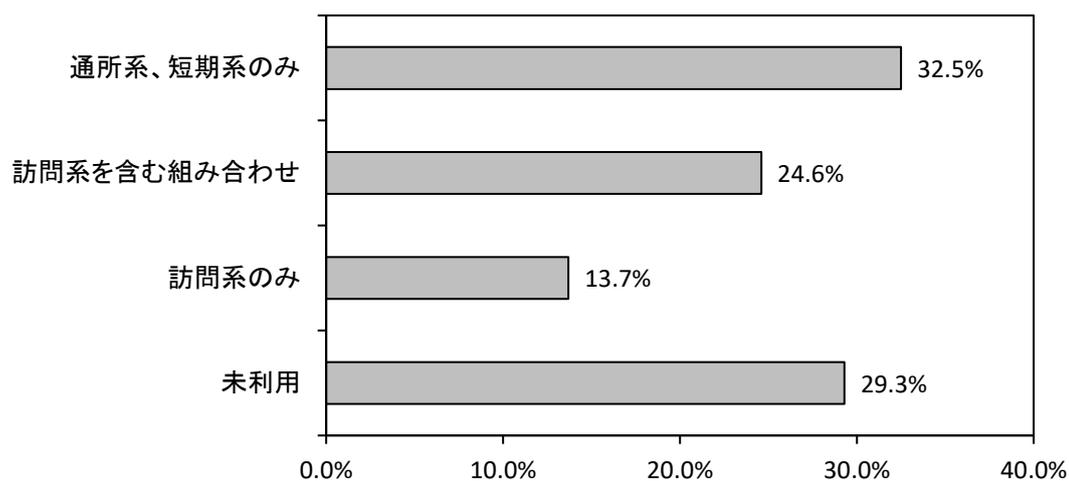
◆ 全国の調査結果と比較すると、介護度の重度化に伴い、訪問診療の利用割合が増加していることがわかります。

【要介護度3以上の方のサービス利用の組み合わせ】

[三浦市]



[全国]

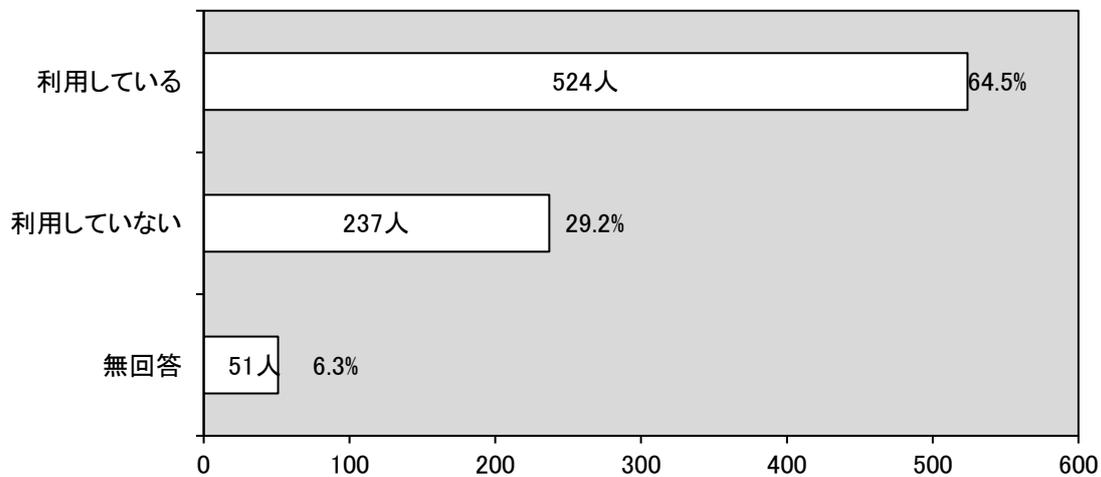


◆ 全国の調査結果と比較すると、全国も本市も「未利用」の割合が大きいものの、それを除くと「通所系、短期系のみ」のサービスを利用している方が多く見られました。

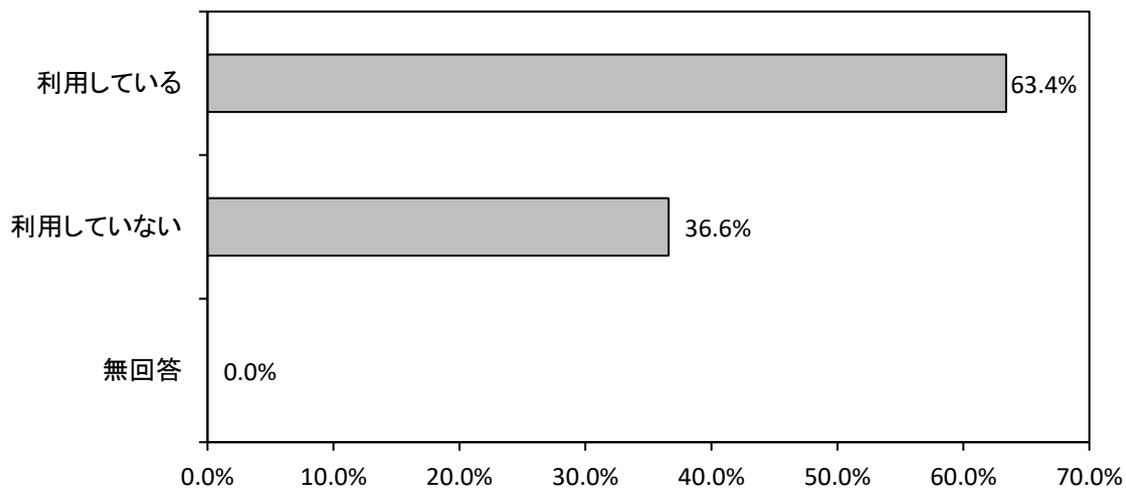
今後も、在宅で生活する医療ニーズの高い人のために、訪問介護と訪問看護の包括的サービスである定期巡回・随時対応型訪問介護看護や、訪問看護と通いを中心とした包括的サービスである看護小規模多機能型居宅介護の必要性が高まるものと推測されます。

カ 介護保険サービスの利用状況等について  
【介護保険サービスの利用の有無】（単数回答）  
[三浦市]

回答者数 812人



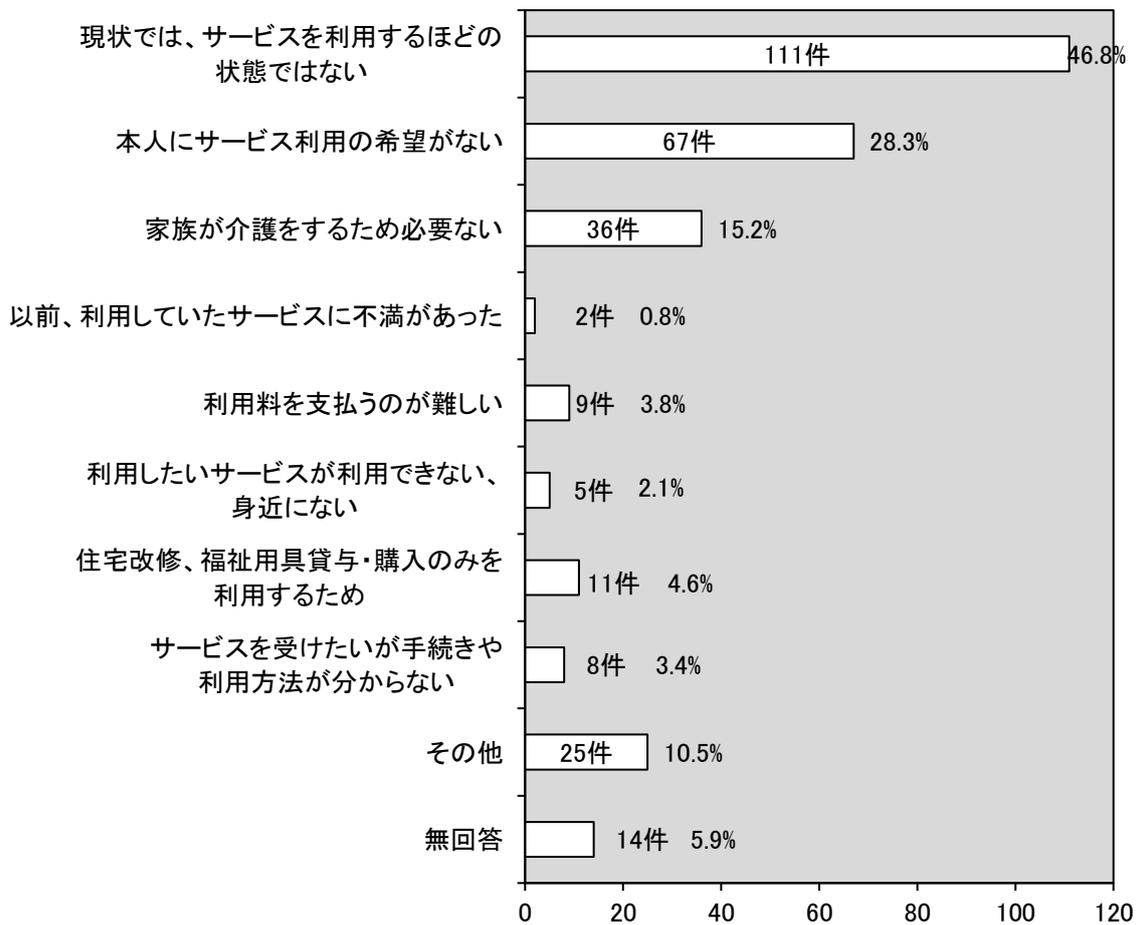
[全国]



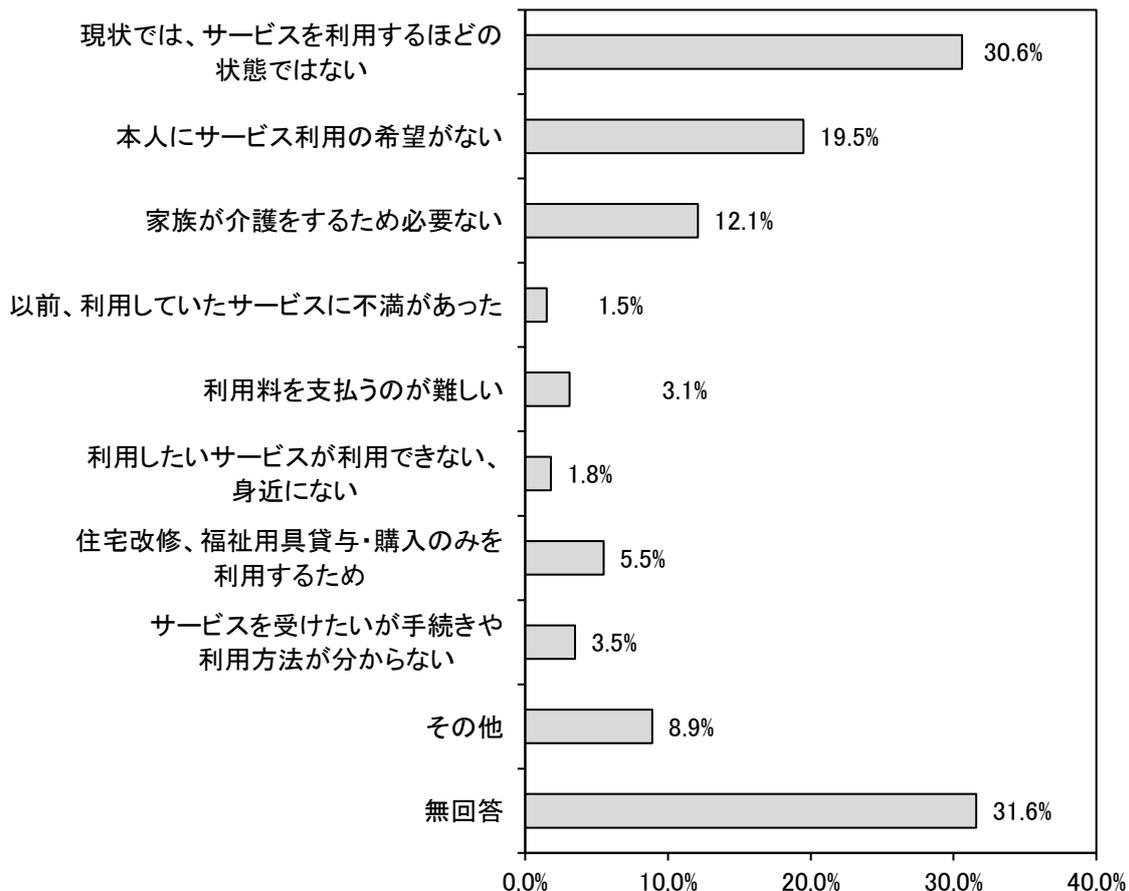
【介護保険サービス未利用の理由】（複数回答）

[三浦市]

総数 288件  
回答者数237人



[全国]



◆ 全国の調査結果と比較すると、サービスを利用していない方の差が少ない結果となりました。

未利用の理由としては、本市では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が半数近い割合を占める結果となりました。この結果から、そもそもサービスのニーズがない方が多いことがわかります。サービスの利用を想定していない介護認定申請は、サービス利用を希望している方の認定の遅れにつながるおそれがあるため、適切なタイミングで認定申請をしていただくよう周知していく必要があると考えられます。

このページは空白ページです